

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	1	開講区分	前期	担当教員 東 路子			
授業科目名 基礎演習	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、能動的な学習を促す学習技法を中心に授業を展開する。体験型ワークを通じて自己の取り組み方や感じ方を振り返り、学びに向かう姿勢や成長の方向性を見つめ直す。模擬試験を実施し、これまでの学習内容の理解度や課題を客観的に把握する。結果のみを重視するのではなく、自己の特性や課題を理解し、今後の学習や成長につなげる意識を持って取り組む。

〔到達目標〕

ワークおよび模擬試験の結果を基に、自身の到達度を客観的に捉え、課題を言語化して次の学習行動に結びつけることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	コミュニケーション	オリエンテーション
2	コミュニケーション	学校生活に必要な機器の設定ができる。
3	コミュニケーション	自己紹介を通じてコミュニケーションを図ることができる。
4	学則	学校生活における学則ルールを理解することができる。
5	学力試験	基礎学力試験の実施を通じて学びの特徴を知ることができる。
6	目標設定	個人の目標設定ができる。
7	手の感覚	手の感覚について ゲームを通じて研ぎ澄ますことができる。
8	目標設定	プロジェクトを通じて 自己成長すべき目標を立てる。
9	IT・DXについて	ITリテラシーについて学びリテラシーを理解できる。
10	東洋系模擬試験	東洋系模試を通じて理解を深めることができる。
11	東洋系模擬試験	東洋系模試を通じて理解を深めることができる。
12	東洋系模擬試験	東洋系模試を通じて理解を深めることができる。
13	模擬試験	模擬試験を通じて理解を深めることができる。
14	模擬試験	模擬試験を通じて理解を深めることができる。
15	模擬試験	模擬試験を通じて理解を深めることができる。

〔成績評価について〕

模擬試験2回(40%)
課題レポート(10%×2回)

〔特記事項・授業時間外における学習〕

模擬試験実施後、自己分析シートを作成し自主学習課題として取り組む。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年 1	開講区分 後期	担当教員 宇城 孝佑			
授業科目名 コミュニケーションスキル I	必修・選択 必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場における人材育成、コミュニケーション研修を担当する講師が、医療・治療業界で求められる「対人基礎力」と「自己管理能力」を、ワークショップを中心に実践的に学びを提供する。患者様との信頼関係構築はもちろん、職場での円滑な連携、そしてプロとして成果を出し続けるための目標設定スキルを習得する。

〔到達目標〕

- ・自己把握：社会人基礎力を指標に、自身の強みと課題を客観的に説明できる。
- ・現場対応：患者や周囲のスタッフに対し、状況に応じた適切なコミュニケーションができる。
- ・目標遂行：規律を遵守し、時間管理と具体的な行動設定によって目標を達成できる。
- ・主体性：組織の一員として当事者意識を持ち、集団の課題解決に貢献できる。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション	キャリア教育カリキュラムの概要と必要性
2	キャリア教育の目的	コミュニケーションタイプワーク/社会人基礎力の自己採点
3	チームビルディング	自己分析ワーク
4	●チームで働く力 発信力、傾聴力	治療院における患者様とのコミュニケーション課題の実例 コミュニケーションワーク実践(背面コミュニケーション)
5	●チームで働く力 柔軟性、状況判断力	治療院における上司・先輩とのコミュニケーション課題の実例 コミュニケーションワーク実践(価値観の優位付け)
6	●チームで働く力 規律性、ストレスコントロール力	規律(凡事徹底)の必要性、ストレスとの向き合い方
7	●考え抜く力 課題発見力、計画力	目標達成スキル、目標設定ワーク
8	●考え抜く力 想像力	入学半年間の振り返り(社会人基礎力の自己採点・フィードバック)
9	●チームビルディング	世の中に求められる治療家とは？ コミュニケーションワーク(グループディスカッション)
10	●前に踏み出す力 主体性	当事者と被害者・評論家・傍観者の違い コミュニケーションワーク(フラフープ)
11	●前に踏み出す力 働きかけ力	マネジメントの発想法、マネジメント実践ソーク
12	●前に踏み出す力 実行力	行動設定の5つのポイント タイムマネジメントの基礎、行動設定ワーク
13	まとめ	1年間のまとめワーク
14	まとめ	入学1年間を振り返る 社会人基礎力の自己採点、フィードバック
15	評価試験	今まで学習した内容の自己評価と今後のキャリアについてレポートを作成し、振り返る。

〔成績評価について〕

課題(レポート)の作成にて評価する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	通年前期	担当教員			
授業科目名	コミュニケーションⅡ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
専任教員										

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、多様な場面で必要となるコミュニケーション力と社会性を身につけることを目的とし展開する。江戸川区西葛西という地域を理解し、災害発生時を想定して他者と協力しながら行動する姿勢を養う。
また、講演や講習会を通して最先端の技術や専門的取り組みに触れ、話を聞き理解する力を育成する。国際教育では、異文化や多様な価値観を学び、相手を尊重した関わり方を考えるとともに、学生が社会の一員として適切に行動できる基本的態度を身につけられるよう指導する。

〔到達目標〕

社会や地域、国際的な場面において、相手を尊重した適切なコミュニケーションを取ることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	目標設定	オリエンテーション
2	目標設定	最初の授業を通じて自身の目標を表明できる。
3	コミュニケーション技法	防災散歩を通じて地域の地理を理解する。
4	コミュニケーション技法	防災散歩を通じて仲間の他己紹介をすることができる。
5	コミュニケーション技法	BBQを通じてクラス交流ができる。
6	コミュニケーション技法	レクリエーションを通じて、クラスの団結力を高めることができる。
7	集団行動	スポーツ大会
8	集団行動	スポーツ大会
9	集団行動	スポーツ大会
10	集団行動	スポーツ大会
11	国際教育	海外の鍼灸について学ぶことができる。
12	国際教育	海外の鍼灸について学ぶことができる。
13	国際教育	国際教育を通じて、コミュニケーションを学ぶ。
14	国際教育	国際教育を通じて、コミュニケーションを学ぶ。
15	国際教育	国際教育を通じて、コミュニケーションを学ぶ。

〔成績評価について〕

レポート全4回提出にて評価する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

--	--

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	1	開講区分	前期	担当教員 鈴木 勇気			
授業科目名 保健体育 I	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

プロスポーツ現場で10年トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔到達目標〕

中高校生など育成年代の部活動やスポーツチームで現場の高いニーズに応じてフルタイムでトレーナー活動ができるようになること。

〔使用教材、参考文献等〕

トレーニング指導者テキスト(理論編)(実践編)、ストレングス&コンディショニング I (理論編) II (エクササイズ編) ファンクショナルトレーニング、MOVEMENT、走動作のファンクショナルトレーニング

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	講義の概要とトレーナーとして必要なことや不可欠な要素	トレーナーの必要性や重要性が理解できる。
2	パートナーストレッチの必要性と方法	パートナーストレッチの必要性を理解するとともにパートナーストレッチが模倣・指導できる。
3	パートナーストレッチの確認テスト(実技)	パートナーストレッチの確認テストを実施する。
4	クーリングダウン及び静的ストレッチの必要性と方法	静的ストレッチの必要性を理解するとともに静的ストレッチが模倣・指導できる。
5	静的ストレッチの確認テスト(実技)	静的ストレッチのテストを実施する。
6	ウォーミングアップ及び動的ストレッチの必要性と方法	動的ストレッチの必要性を理解するとともに動的ストレッチが模倣・指導できる。
7	動的ストレッチの確認テスト(実技)	動的ストレッチのテストを実施する。
8	自重の筋トレ(スクワットやランジ、腕立て伏せ、アニマルフロー)の必要性と方法	自重の筋トレの必要性を理解するとともに自重の筋トレが模倣・指導できる。
9	道具(バランスボール、ストレッチボール)を用いたトレーニングの必要性と方法	ストレッチボールの必要性を理解するとともに、多くのトレーニングが模倣・指導できる。
10	ストレッチボールを用いたエクササイズの確認テスト(実技)	ストレッチボールを用いたエクササイズのテストを実施する。
11	道具(セラバンドやゴムチューブ)を用いたトレーニングの必要性と方法	セラバンドやゴムチューブの必要性を理解するとともに、多くのトレーニングが模倣・指導できる。
12	スポーツにおける栄養・休養の必要性と方法	栄養・休養の必要性を理解するとともに食事・休養の必要性などを指導できる。
13	トレーニング施設の管理・運営①(スポーツジム)	スポーツジム施設の安全及び環境の配慮、運営の際に考慮すべき事項を理解できる。
14	トレーニング施設の管理・運営②(トレーナールーム)	トレーナールームの環境配慮、運営の際に考慮すべき事項を理解できる。
15	中間テスト	筆記テスト

〔成績評価について〕

評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。合計4回行なう実技確認テストは、各回10点満点とし、筆記試験は60点満点とする。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	保健体育 I			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

プロスポーツ現場で10年トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔到達目標〕

中高校生など育成年代の部活動やスポーツチームで現場の高いニーズに応じてフルタイムでトレーナー活動ができるようになること。

〔使用教材、参考文献等〕

トレーニング指導者テキスト(理論編)(実践編)、ストレングス&コンディショニング I (理論編) II (エクササイズ編) ファンクショナルトレーニング、MOVEMENT、走動作のファンクショナルトレーニング

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	講義の概要とテーピングの概要	テーピングの基礎的な内容が理解できる
2	足関節の触診の復習とテーピングの切り方	テーピングの切り方のコツをマスターできる
3	アンダーラップの使い方と巻き方①	アンダーラップの巻き方のコツをマスターできる
4	アンダーラップの使い方と巻き方②	アンダーラップの巻き方のコツをマスターできる
5	アンダーラップテスト(実技)	アンダーラップの確認テストを実施する
6	アンカーテープとステアアップ	ステアアップまでの巻き方のコツをマスターできる
7	ホースシュー、ヒールロック、フィギュアエイト	フィギュアエイトまでの巻き方のコツをマスターできる
8	足関節内反捻挫予防(片脚)の確認テスト(実技)	足関節内反捻挫予防テーピング(片脚)の確認テストを実施する
9	足関節捻挫に対する応用テーピング①(サッカーテーピング)	足関節捻挫のテープ(応用①)を巻くことができる
10	足関節捻挫に対する応用テーピング②(底背屈制限)	足関節捻挫のテープ(応用②)を巻くことができる
11	足関節内反捻挫予防(両脚)の確認テスト(実技)	足関節内反捻挫予防テーピング(両脚)の確認テストを実施する
12	足関節捻挫に対する応急処置のやり方①	RICE処置の必要性を理解するとともに圧迫が模倣・指導できる
13	足関節捻挫に対する応急処置のやり方②	RICE処置の必要性を理解するとともにアイシングが模倣・指導できる
14	アイシングの確認テスト(実技)	アイシングの確認テストを実施する
15	期末テスト	筆記テスト

〔成績評価について〕

評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。合計4回行なう実技確認テストは、各回10点満点とし、筆記試験は60点満点とする。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	解剖学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。専門知識だけではなく、学生の主体的な行動を促し、自主的に学びたいと思えるような工夫を施した授業展開をする。生成AIの活用、グループワーク、立体的なイメージを培う360°ビューアなどのコンテンツを扱い、3次元的な知識を身につけられるよう授業を展開する。

〔到達目標〕

医学の基礎となる解剖学の知識を習得し、将来の治療や国家試験に活かせる知識を身につける。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学(医歯薬出版) 解剖生理(医歯薬出版社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章:人体の構成 細胞～上皮組織	生成AIを用いた勉強をできるようになる。
2	第1章:人体の構成 結合組織～人体区分	生成AIでスライドを作成できるようにしてみる。
3	第1章:人体の構成 グループワーク	生成AIで作成した資料からプレゼンができるようになる。 ・スライド提出
4	第1章:人体の構成 まとめ まとめノート作成	1章の内容を網羅的に理解できる。
5	第10章:運動器系 上半身マッピング	上半身の骨と筋肉の位置関係をイメージできる。 ・第1章のまとめノートの提出(1回目)
6	第10章:運動器系 下半身マッピング	下半身の骨と筋肉の位置関係をイメージできる。 ・運動器上半身マッピングのまとめノート提出(2回目)
7	中間テスト 第10章:運動器系 総論(全身の骨の名称)	前半の習熟度を確認する。 ・運動器下半身マッピングのまとめノート提出(3回目)
8	第10章:運動器系 脊柱	脊柱の基本構造を理解し、生理的彎曲の名称と役割を説明できる。 ・運動器のまとめノート提出(4回目)
9	第10章:運動器系 胸郭	胸郭を構成する骨を挙げ、呼吸運動との関わりをイメージできる。 ・運動器のまとめノート提出(5回目)
10	第10章:運動器系 上肢帯	鎖骨と肩甲骨の形状を理解し、体幹と腕をつなぐ仕組みを説明できる。 ・運動器のまとめノート提出(6回目)
11	第10章:運動器系 上肢の骨	上腕骨、前腕の骨(橈骨・尺骨)、手根骨の名称と位置関係を特定できる。 ・運動器のまとめノート提出(7回目)
12	第10章:運動器系 下肢帯	骨盤構成を理解し、男女差の特徴を挙げることができる。 ・運動器のまとめノート提出(8回目)
13	第10章:運動器系 下肢の骨	大腿骨、下腿の骨、足根骨の名称を覚え、各骨の役割を理解する。 ・運動器のまとめノート提出(9回目)
14	第10章:振り返り	骨の全体像について理解しているかを確認する。 ・運動器のまとめノート提出(10回目)
15	期末テスト	骨の構造について全体像を理解しているかを確認する。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験と提出物で行う。
配点として、中間試験(30点分)、期末試験(30点分)、スライド提出(10点)、ノート提出(3×10回)
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

・3年生時に見返せるようなマイノートを作成します。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		岩井 李恩	
授業科目名	解剖学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。専門知識だけではなく、学生の主体的な行動を促し、自主的に学びたいと思えるような工夫を施した授業展開をする。生成AIの活用、グループワーク、立体的なイメージを培う360°ビューアなどのコンテンツを扱い、3次元的な知識を身につけられるよう授業を展開する。

〔到達目標〕

医学の基礎となる解剖学の知識を習得し、将来の治療や国家試験に活かせる知識を身につける。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学(医歯薬出版) 解剖生理(医歯薬出版社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第10章:運動器系頭蓋骨	前頭骨・頂骨・後頭骨など、脳を包む骨のバズル状の組み合わせを理解する。
2	第10章:運動器系頭蓋骨	上顎骨・下顎骨・頬骨など、顔の形を作る骨と、感覚器(目・鼻)との関係を把握する。骨の全体像について理解しているかを確認する。 ・運動器のまとめノート提出(1回目)
3	第10章:運動器系頭蓋骨	頭蓋骨の底にある穴(孔)を通り、脳と体をつなぐ神経・血管の通り道をイメージする。骨の全体像について理解しているかを確認する。 ・運動器のまとめノート提出(2回目)
4	第10章:運動器系体幹の筋①	僧帽筋・広背筋・脊柱起立筋の走行を覚え、姿勢を維持する仕組みを理解する。 ・運動器のまとめノート提出(3回目)
5	第10章:運動器系体幹の筋②	大胸筋・腹直筋・横隔膜の働きを学び、呼吸や腹圧のコントロールを理解する。 ・運動器のまとめノート提出(4回目)
6	第10章:運動器系上肢の筋①	三角筋・上腕二頭筋・三頭筋など、大きな関節を動かすパワーの源を特定できる。 ・運動器のまとめノート提出(5回目)
7	第10章:運動器系上肢の筋②	肘から手首までの筋肉の重なりを理解し、回内・回外といった複雑な動きを把握する。 ・運動器のまとめノート提出(6回目)
8	第10章:運動器系上肢の筋③	手内筋の繊細な構造を学び、人間特有の細かな指の動きのメカニズムをイメージする。 ・運動器のまとめノート提出(7回目)
9	中間テスト	頭蓋骨や上肢の構造が理解できているかを確認する。 ・運動器のまとめノート提出(8回目)
10	第10章:運動器系下肢の筋①	大臀筋・大腿四頭筋・ハムストリングスなど、体を支え運ぶための強力な筋群を理解する。
11	第10章:運動器系下肢の筋②	前脛骨筋・下腿三頭筋などの配置を学び、地面を蹴り出す仕組みを説明できる。 ・運動器のまとめノート提出(9回目)
12	第10章:運動器系下肢の筋③	足底の筋群とアーチ構造を理解し、体重を分散して支える機能を把握する。 ・運動器のまとめノート提出(10回目)
13	第10章:運動器系頭頸部の筋	頭頸部の筋肉の構造を理解し、臨床で出会う頻度の高い肩こりや頭痛について理解する。 ・運動器のまとめノート提出(11回目)
14	期末テスト 解説	筋肉全体の走行や働きが理解できているかを確認する。 ・運動器のまとめノート提出(12回目)
15	第10章:運動器系体幹の局所解剖	骨や筋肉が構成する隙間の名称やそこを通過する血管、神経についてをイメージできるようにする。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験と提出物で行う。
配点として、中間試験(30点分)、期末試験(30点分)、ノート提出(3×12回)、30コマ分のノート提出(4点)
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

・3年生時に見返せるようなマイノートを作成します。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		櫻井 恵司	
授業科目名	解剖学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

鍼灸マッサージ師、NSCA-CPT/CSCSの資格を持ち、20年以上教育に携わる開業鍼灸師マッサージ師が、医療の基礎となる解剖学(内臓系、循環器系、中枢神経・伝導路)を習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。

[到達目標]

医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。
呼吸器、消化器、泌尿器、内分泌器、循環器、中枢神経・伝導路について、国家試験の要点を理解し、説明できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

各章毎に配布するレジュメと国家試験過去問題を使用。
解剖学【第2版】公益社団法人 東洋療法学校協会編 (河野邦雄 伊藤隆造 坂本裕和 前島徹 樋口桂著) 医歯薬出版

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第3章 呼吸器系 呼吸器の概要	呼吸器系に属する器官の名称と位置をできる説明できる。 呼吸器系に属する器官の上皮組織の種類を説明できる。
2	鼻腔・咽頭	鼻腔各部の名称、副鼻腔と開口部を説明できる。 咽頭の位置と構造を説明できる。
3	喉頭・気管・気管支	喉頭軟骨の種類と特徴を説明できる。 気管の位置と構造、気管支の左右差を説明できる。
4	肺・胸膜・縦隔の構造	肺各部の名称と構造、左右差、肺門を通過するものを説明できる。 胸膜の構造、縦隔を構成する要素と縦隔内の器官を説明できる
5	確認テスト 第2章 循環器系 循環の概要	試験により効果測定を行い、呼吸器系の習得度を確認できる。 体循環と肺循環を説明できる。
6	心臓の構造	心臓の位置、各部の名称、構造を説明できる
7	刺激伝導系、心臓の血管	刺激伝導系の種類と位置を説明できる。 冠状動脈の分岐と走行、冠状静脈洞の位置を説明」できる。
8	確認テスト 体循環の動脈	試験により効果測定を行い、心臓の構造の習得度を確認できる。 大動脈の走行と大動脈弓の直接枝を説明できる。
9	総頸動脈・鎖骨下動脈	総頸動脈と鎖骨下動脈の分枝とその走行を説明できる。
10	小テスト① 大脳動脈輪・胸大動脈・腹大動脈	大脳動脈輪を構成する動脈を説明できる。 胸大動脈と腹大動脈の分枝と大まかな支配領域を説明できる。
11	小テスト② 総腸骨動脈	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 総腸骨動脈の走行と直接枝を説明できる。
12	小テスト③ 肺循環の静脈系・体循環の静脈系	静脈の走行と動脈の走行との相違を説明できる。 上大静脈に注ぐ静脈とその走行(特に奇静脈系)を説明できる。
13	小テスト④奇静脈系・下大静脈	奇静脈系の走行を説明できる。 下大静脈に注ぐ静脈とその走行(特に門脈系)を説明できる。
14	胎児循環・リンパ系	胎児循環の概要とリンパ循環を説明できる。 リンパ系に属する器官とその構造を説明できる。
15	期末テスト 第4章 消化器系 消化器系の概要	試験により効果測定を行い、動脈・静脈・リンパの習得度を確認できる。 消化器系に属する器官と上皮組織・筋組織の種類を説明できる。

[成績評価について]

成績評価はすべて筆記試験で行う。
確認テストは呼吸器系の終了時、心臓の構造の終了時の2回行う(計30点)
小テストは動脈の範囲で4回行う(計20点)
期末テストは15回目の授業で行う(50点)
実施日や配点は授業の進行により変更することがあり、その場合は事前に告知する。

[特記事項・授業時間外における学習]

解剖学は理解すべき専門用語や構造が多いため、積極的に授業に参加し、毎授業後に復習を行うこと。自宅では配布するレジュメを理解するだけでなく、国家試験の過去問題の解答解説を行うこと。
わからなかったことは必ず教員に確認すること。
◎定期試験前の学習だけでは、一時的、かつ表面的な理解にとどまり、国家試験レベルの習得度に到達することが難しい為、日々の学習が必要となる。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員		櫻井 恵司	
授業科目名	解剖学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

鍼灸マッサージ師、NSCA-CPT/CSGSの資格を持ち、20年以上教育に携わる開業鍼灸師マッサージ師が、医療の基礎となる解剖学(内臓系、循環器系、中枢神経・伝導路)を習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。

〔到達目標〕

医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。
呼吸器、消化器、泌尿器、内分泌器、循環器、中枢神経・伝導路について、国家試験の要点を理解し、説明できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

各章毎に配布するレジュメと国家試験過去問題を使用。
解剖学【第2版】公益社団法人 東洋療法学校協会編 (河野邦雄 伊藤隆造 坂本裕和 前島徹 樋口桂著) 医歯薬出版

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 口腔	口腔各部の名称を説明できる。 大唾液腺、舌の構造を説明できる。
2	口腔・(咽頭)・食道・胃	歯の構造を理解できる。食道の構造と走行を説明できる。 胃の各部の名称を説明できる。
3	胃・腹膜	胃の腺細胞と間膜を説明できる。 腹膜の構造と腹膜後器を説明できる。
4	定期テストⅠ(小テスト) 小腸・大腸	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 小腸と大腸の構造と相違を説明できる。
5	肝臓	肝臓の各部の名称と構造を説明できる。 肝臓の血管、肝門を通過するものを説明できる。
6	胆嚢・膵臓 第5章 泌尿器系 泌尿器系の概要・腎臓	胆嚢の位置と胆路を説明できる。膵臓の構造と内分泌腺を説明できる。 泌尿器系に属する器官と位置を説明できる。
7	腎臓、尿管、膀胱	腎臓の構造、血管、腎門を通過するものを説明できる。 尿管の走行、膀胱の性差、粘膜上皮を説明できる。
8	定期テストⅡ(確認テスト) 尿道、第7章 内分泌系	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 尿道の性差、内分泌系の概要を説明できる。
9	下垂体・甲状腺・上皮小体	下垂体・甲状腺・上皮小体の位置、構造、ホルモンを説明できる。
10	副腎、性腺、第8章 神経系 神経の概要	副腎の位置、構造、ホルモンを説明できる。性腺のホルモンを説明できる。 神経系の全体像と神経細胞と神経膠細胞を説明できる。
11	定期テストⅢ(小テスト) 脊髄	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 脊髄の構造を説明できる。
12	脳幹、小脳、間脳	脳幹、小脳、間脳の位置と構造を説明できる。 関与する伝導路と脳神経核を説明できる。
13	大脳	大脳皮質と機能を理解できる。大脳髓質の構造と神経線維の走行を説明できる。
14	定期テストⅣ(期末テスト) 髄膜、脳室系	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 髄膜の種類、脳室系と脳脊髄液の循環路を説明できる。
15	伝導路	伝導路の名称と走行(通過部位)を説明できる。

〔成績評価について〕

成績評価はすべて筆記試験で行う。
確認テストは呼吸器系の終了時、心臓の構造の終了時の2回行う(計30点)
小テストは動脈の範囲で4回行う(計20点)
期末テストは15回目の授業で行う(50点)
実施日や配点は授業の進行により変更することがあり、その場合は事前に告知する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

解剖学は理解すべき専門用語や構造が多いため、積極的に授業に参加し、毎授業後に復習を行うこと。自宅では配布するレジュメを理解するだけでなく、国家試験の過去問題の解答解説を行うこと。

わからなかったことは必ず教員に確認すること。

◎定期試験前の学習だけでは、一時的、かつ表面的な理解にとどまり、国家試験レベルの習得度に到達することが難しい為、日々の学習が必要となる。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	生理学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
[授業の学習内容と心構え]										

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。医療の基礎となる生理学の知識習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり予習復習して授業に臨んでほしい。□

[到達目標]

医学の基礎となる生理学の知識を習得する。身体の正常な働きを説明できるようになる。□

[使用教材、参考文献等]

[使用教材] 第3版 生理学(医歯薬出版株式会社)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章 生理学の基礎	科目概要および生理学を学ぶ意義を理解する。 細胞内小器官の役割を理解する。
2	第1章 生理学の基礎	細胞内小器官の役割を理解する。体液の組成と働きを理解する。
3	第1章 生理学の基礎	物質移動の種類と法則を理解する。
4	第4章 消化と吸収 小テスト実施	消化吸収の過程について理解する。
5	第4章 消化と吸収	消化管運動と調節機構について理解する。 消化液の作用について酵素を中心に理解する。
6	第4章 消化と吸収	消化液の作用について酵素を中心に理解する。吸収の機序を理解する。
7	第4章 消化と吸収 小テスト実施	吸収の機序を理解する。肝臓の働きを理解する。
8	中間テスト	第1章・第4章の知識の習熟度を確認する試験を行う。
9	第5章 代謝	テストを返却し、解説する。 基礎代謝について理解する
10	第5章 代謝	糖質・脂質の働きと代謝について理解する。
11	第5章 代謝	蛋白質および副栄養素の働きと代謝について理解する。
12	第7章 排泄 小テスト実施	腎臓の働きを理解する。
13	第7章 排泄	尿生成のしくみ、腎機能の測定について理解する。□
14	第7章 排泄 小テスト実施	腎臓による体液の調節機構を理解する。
15	期末テスト	第5章・第7章の知識の習熟度を確認する試験を行う。□

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)で行う。小テスト5点×4回(20点)はFormsで行う。合計120点で評価する。小テスト、確認テスト、期末テストの合計点が72点未満の者は再試験を実施する。評価は学則規定に準ずる。□

[特記事項・授業時間外における学習]

プリント(データ)資料を配布し授業を行う。メモを取る習慣をつけ、能動的に授業を受けるようにする。疑問に思ったことはわからないままにしないようにする。小テストを行うので復習をしっかりとるようにする。□

□
□
□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	生理学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
							今井 紀代子			

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。医療の基礎となる生理学のうち、循環器系・呼吸器系を習得する授業を行う。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講して欲しい。座学での授業であるため、しっかり復習することはもちろん、事前に教科書を読むなどの予習もして授業に臨んで欲しい。□

〔到達目標〕

医学の基礎となる生理学の知識を習得する。身体の正常な働きを説明できるようになる。□

〔使用教材、参考文献等〕

〔使用教材〕 第3版 生理学(医歯薬出版株式会社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	2章 循環 A、血液の組織と働き～赤血球	血液の組成、赤血球の働きについて理解できる。
2	白血球～血漿	白血球・血小板・血漿の働きについて理解できる。
3	B、止血～D、血液型	血小板血栓・血液凝固・繊維素溶解の流れ、血液型について理解できる。
4	E、心臓血管系～F、心臓の構造と働き	大循環・小循環、動脈と静脈、心臓の構造、心筋、刺激伝導系、心周期について理解できる。
5	G、血液循環	血管の構造、脈拍、血管の神経支配、血圧について理解できる。
6	H、循環調節～I、リンパ系	循環調節の仕組み、循環の反射性調節、特殊な部位の循環、リンパ系について理解できる。
7	2章 総復習	2章全般について、苦手なところを確認し理解できるようにする。
8	中間テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	テスト返却・解説	テストを解説し、間違えたところを確認する。
10	3章 呼吸 A、呼吸器～B、換気とガス交換 a. 肺機能	呼吸器の構造、肺機能について理解する。
11	b.ガス交換とガスの運搬	吸気・呼気の構成、肺・組織でのガス交換について理解する。
12	C、呼吸運動とその調節	呼吸運動、呼吸の反射性調節、呼吸の異常について理解する。
13	3章 総復習	3章全般について、苦手なところを確認し理解できるようにする。
14	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
15	テスト返却・解説	テストを解説し、間違えたところを確認する。

〔成績評価について〕

評価は定期試験(中間・期末テスト)により行う。基本的には筆記試験で、中間テスト(40点)、期末テスト(60点)の合計100点で評価する。小テストを実施し、中間・期末テストに加算する。期末テストには中間テストの内容も含まれる。評価は学則規定に準ずる。
100点満点中で60点未満の者は再試験を1度実施する。(再試験は中間・期末の全ての範囲で実施する)再試験は100点満点で60点以上の場合でも評価は60点扱いとする。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

プリント(またはデータ)を中心に授業を行うので、プリントの重要項目を中心に全体的な流れをつかむことが大切である。メモを取るような習慣をつけ、自学習に役立てて欲しい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			担当教員	森 大輔			
授業科目名	学年	1	開講区分	後期	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
生理学 I	必修・選択	必修	授業形態	講義				

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。医療の基礎となる生理学の知識習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり予習復習して授業に臨んでほしい。□

〔到達目標〕

医学の基礎となる生理学の知識を習得する。身体の正常な働きを説明できるようになる。□

〔使用教材、参考文献等〕

〔使用教材〕 第3版 生理学(医歯薬出版株式会社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第10章 神経 A.ニューロンの構造と働き a.ニューロン～d.変性と再生	神経の分類、ニューロンの働きについて理解する。
2	第10章 B.神経線維の興奮伝導 a.静止電位～c.興奮の伝導	興奮伝導の仕組み、神経線維の分類について理解する。
3	第10章 C.シナプス伝達 a.興奮の伝達～e.受容体	伝達、受容体について理解する。
4	第10章 D.中枢神経系の分類と機能 E.反射	中枢神経系の分類と機能、反射について理解する。
5	第10章 F.脊髄	脊髄の基礎知識、伝導路について理解する。
6	第10章 G.脳幹～視床下部	中枢神経系の分類と機能について理解する。
7	中間テスト	第1回～第7回の知識の習熟度を確認する試験を行う。
8	中間テスト返却・解説 中枢神経系の復習 第10章 M.末梢神経系	テストを返却し、解説する。 中枢神経系の復習 末梢神経系の分類と機能について理解する。
9	第10章 K.大脳～L.脳脊髄液	中枢神経系の分類と機能について理解する。
10	第10章 N.自律神経系～b.交感神経系	自律神経系の機能と支配領域について理解する。
11	第10章 c.副交感神経系～g.消化管における壁内神経叢	自律神経系の機能と支配領域について理解する。
12	第10章 h.自律神経系の神経伝達物質と受容体～j.自律神経の関与する反射 小テスト	自律神経系の機能と支配領域について理解する。
13	第10章 神経 復習	第10章 神経 総復習□
14	期末テスト	第8回～第12回の知識の習熟度を確認する試験を行う。
15	期末試験の返却・解説	テストを返却し、解説する。□

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)で行う。小テスト5点×4回(20点)はFormsで行う。合計120点で評価する。小テスト、確認テスト、期末テストの合計点が72点未満の者は再試験を実施する。評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

プリント(データ)資料を配布し授業を行う。メモを取る習慣をつけ、能動的に授業を受けるようにする。疑問に思ったことはわからないままにしないようにする。小テストを行うので復習をしっかりとるようにする。□

□
□
□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			担当教員	酒井 大輝			
授業科目名	学年	1	開講区分	後期	時間数 (単位)	15 (1)	授業回数	8
	必修・選択	必修	授業形態	講義				

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。
 正常な身体システムについて各器官ごとに構造と機能を連動させて理解を深めるための講義を行う。

〔到達目標〕

神経系(中枢神経と末梢神経)と筋・運動に関して作用を担う器官の部位および構造的特徴を理解しそれぞれの機能の連動について理解を深め説明できるようにする。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学【第2版】公益社団法人 東洋療法学校協会編・第3版 生理学(医歯薬出版株式会社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	解剖学 末梢神経	脊髄神経の特徴を理解できる。
2	解剖学 末梢神経	自律神経と脳神経の特徴を理解できる。
3	生理学 筋	筋の種類と特徴を理解できる。
4	生理学 筋	筋の種類と特徴を理解できる。
5	生理学 運動	運動の基礎と反射について理解できる。
6	生理学 運動	反射と運動調節について理解できる。
7	生理学 運動	運動調節とその他について理解できる。
8	期末試験	習熟度を測るために試験を行い、復習の機会とすることにより、授業範囲の理解をすることができる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔成績評価について〕

解剖学の範囲レポート課題20点分とFormsによる確認試験20点。
 生理学の範囲60点分の確認試験にて評価。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

レポート課題を細かく実施すること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			担当教員	深山 俊			
授業科目名	学年	1	開講区分	前期	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
	必修・選択	必修	授業形態	講義				

〔授業の学習内容と心構え〕

鍼灸師として臨床現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、保健医療福祉の基本的事項および保健衛生の知識を習得する授業を行う。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

国民が知らなければならない保健医療福祉の基本的事項を学び、医療従事者として患者に必要な保健衛生の知識や療養・リハビリテーション・生活の仕方・制度などについて新しい情報を伝えられ、指導できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

衛生学・公衆衛生学【医歯薬出版】

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章 衛生学・公衆衛生学の意義	衛生学・公衆衛生学の成立、源流や歴史を理解できる。
2	第10章1、消毒法一般 2、消毒の種類 1)物理的方法 (第1章 小テスト)	消毒の定義、種類を理解する。 物理的消毒方法を理解する。
3	第11章 2、消毒の種類 2)化学的方法	化学的消毒方法を理解する。
4	第11章 3、消毒の実際	医療における消毒の意義、対象と方法を理解する。
5	第10章 感染症とその対策 (第11章 小テスト) 1、感染症の意義と種類	感染症の意義と種類を理解する。
6	第10章 2、発生要因	感染症の発生要因を理解する。
7	第10章 3、感染症予防の原則 4.免疫 (第10章 小テスト)	感染症の予防の原則を理解する。
8	<前半 確認テスト>	<確認テスト>
9	第2章 健康 1、健康の概念	健康の概要を理解する。
10	第2章 2、健康管理	健康管理の構成や健康増進を理解する。
11	第2章 3、衛生行政	健康に関する保健所や市町村の役割を理解する。
12	第3章 ライフスタイルと健康 (第2章 小テスト) 1、食品と栄養	食品の意義や食品と疾患の関係性を理解する。
13	第3章 1)~5)食中毒	食中毒について理解する。
14	第3章 6)BSE 2、運動と健康 (第3章 小テスト)	運動と健康の保持・増進を理解する。
15	期末テスト 解答・解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は小テスト4×10=40点・確認テスト30×2=60点・期末テスト50×2=100点の200点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。章ごとの復習はもちろんだが、時事問題にも注視すること(ニュース、ネットニュース、新聞など)

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			担当教員	深山 俊			
授業科目名	学年	1	開講区分	後期	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
衛生学・公衆衛生学	必修・選択	必修	授業形態	講義				

〔授業の学習内容と心構え〕

鍼灸師として臨床現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、保健医療福祉の基本的事項および保健衛生の知識を習得する授業を行う。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

国民が知らなければならない保健医療福祉の基本的事項を学び、医療従事者として患者に必要な保健衛生の知識や療養・リハビリテーション・生活の仕方・制度などについて新しい情報を伝えられ、指導できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

衛生学・公衆衛生学【医歯薬出版】

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第4章環境と健康 1. 環境とは 2. 物理的環境要因	環境要因について理解する。
2	第4章 2. 化学的環境要因 生物的環境要因	環境要因(化学・生物)について理解する。
3	第4章 3. 環境問題	環境問題(公害・地球規模)について理解する。
4	第5章 産業保健 (第4章 小テスト)	産業保健について理解する。
5	第6章 精神保健 精神疾患	精神保健について理解する。
6	第6章 精神保健 精神障害者に対する医療・保護	精神障害者に対する医療・保護を理解する。
7	第7章 母子保健 (第6章・7章 小テスト)	母子保健について理解する。
8	確認テスト	前半部の確認テスト
9	第8章 学校保健	学校保健について理解する。
10	第9章 成人・高齢者保健(第8章・小テスト)	生活習慣病について理解する。
11	第9章 高齢者の保健福祉対策	高齢者の保健福祉対策について理解する。
12	第12章 疫学 (第9章 小テスト)	疫学について理解する。
13	第13章 保健統計	保健統計指標について理解する。
14	第13章 保健統計 (第12章・13章 小テスト)	保健統計指標について理解する。
15	期末テスト 解答・解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は小テスト4×10=40点・確認テスト30×2=60点・期末テスト50×2=100点の200点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。章ごとの復習はもちろんだが、時事問題にも注視すること(ニュース、ネットニュース、新聞など)

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	1	開講区分	前期	担当教員 大石 知絵子/高濱 晴美				
授業科目名 医療概論	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、医療従事者としての責任や医療倫理感を持った教員が、西洋、中国、日本の医学の始まりから現代医学に至るまでを講義する。医療人としてどう現場に立つかを考えながら受講して欲しい。

[到達目標]

どのようにして人類は体や病と向き合ってきたのかを理解し、医療人として患者さんにどう対応していくかを具体的に持つことが出来るようになる。

[使用教材、参考文献等]

医療概論(医歯薬出版)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	医学史（西洋/古代・中世・ルネサンス）	西洋の医学の始まりや流れを学び理解する。
2	医学史（西洋/ルネサンス以降）	西洋の医学を学び理解する。
3	医学史（中国）①	中国の医学の始まりや流れを学び理解する。
4	医学史（中国）②	中国の医学を学び理解する。
5	医学史（日本/古代～中世）	日本の医学の始まりや流れを学び理解する。
6	医学史（日本/中世～近代）	日本の医学を学び理解する。
7	現代医学について	現代の医学について学び理解することが出来る。
8	現代医学について②	現代の医学について学び理解することが出来る。
9	確認テスト	確認テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
10	振り返り、復習	テスト結果を振り返り、再確認をする。
11	現代医療の課題	現代医療の課題を明確にし、課題に対しての自分の意見や考えが持てるようになる。
12	現代の医療制度①	日本の医療制度を学び理解する。
13	現代の医療制度②	日本の医療制度を学び理解する。
14	医療従事者の倫理①	医療従事者とは何かを理解し、医療従事者としてあるべき姿を理解し理解度を高める。
15	期末テスト 解説	確認テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は2回の確認テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

医学史ではカタカナ・漢字での人物名が多く出るので復習をしましょう。
後半の医療制度や倫理は自分の考えなども踏まえて覚えていくようにしましょう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			担当教員	笠井 友和			
授業科目名	学年	1	開講区分	前期	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
	必修・選択	必修	授業形態	講義				

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な経絡経穴の授業を行う。人体における経穴の位置や考え方を学び施術に活用できるよう積極的に受講してほしい。
解剖学的知識や東洋医学的用語など新しい分野なので反復暗唱して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

各経絡に対し経穴名を順番に取穴できる。経絡経穴の特性を理解し説明できる。
解剖学的用語・東洋医学的用語を使い取穴方法を示すことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 経絡経穴概論(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	経絡・経穴の基礎／経絡・経穴の誕生～経絡の概要、要穴	正経十二経、奇経八脈について理解できる。
2	経穴の取り方に必要な用語、骨度法、同身寸法／小テスト経絡経穴の基礎	経穴の取穴に必要な寸度の決定方法や用語を理解する。
3	経脈・経穴：手の太陰肺経	手の太陰肺経の流注について理解する。経穴名を順番に書くことができる。
4	経脈・経穴：手の陽明大腸経①／小テスト手の太陰肺経	経穴の取穴場所を理解できる。手の陽明大腸経の流注と経穴名の順番を理解し書くことができる。
5	経脈・経穴：手の陽明大腸経②／小テスト手の陽明大腸経①	手の陽明大腸経の経穴の取穴場所を理解できる。
6	経脈・経穴：足の陽明胃経①／小テスト手の陽明大腸経②	足の陽明大腸経の流注について理解する。経穴名を順番に書くことができる。
7	経脈・経穴：足の陽明胃経②／小テスト足の陽明胃経①	経穴の取穴場所を理解できる。
8	確認テスト 前半の復習	各経脈の流注と経穴名・取穴場所を理解できる。
9	確認テストの解答解説、国家試験問題の紹介と経穴の覚え方アドバイス	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める
10	経脈・経穴：足の陽明胃経③	経穴の取穴場所を理解できる。
11	経脈・経穴：足太陰脾経①／小テスト足の陽明胃経③	足太陰脾経の流注について理解する。経穴名を順番に書くことができる。
12	経脈・経穴：足太陰脾経②／小テスト肺経・大腸経復習	経穴の取穴場所を理解できる。
13	肺経・大腸経・胃経の取穴確認実技テスト	人体上の取穴場所を理解し、実践することができる。
14	経脈・経穴：手少陰心経／小テスト足太陰脾経	手少陰心経の流注について理解する。経穴名を順番に書くことができる。経穴の取穴場所を理解できる。
15	期末テスト 前期全体の復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

〔成績評価について〕

1～15回授業：小テスト合計15点＋第1回テスト25点＋第2回テスト60点＝100点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			担当教員	笠井 友和			
授業科目名	学年	1	開講区分	後期	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
	必修・選択	必修	授業形態	講義				

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な経絡経穴の授業を行う。人体における経穴の位置や考え方を学び施術に活用できるよう積極的に受講してほしい。
解剖学的知識や東洋医学的用語など新しい分野なので反復暗唱して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

各経絡に対し経穴名を順番に取穴できる。経絡経穴の特性を理解し説明できる。
解剖学的用語・東洋医学的用語を使い取穴方法を示すことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 経絡経穴概論(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	前期期末試験解答解説、難経六十九難について	難経六十九難を使った経穴の選別方法を学び、理解できる。
2	経脈・経穴：督脈	督脈の流注と経穴名、取穴方法を学び理解できる。
3	経脈・経穴：手太陽小腸経①／小テスト督脈	手太陽小腸経の流注と経穴名を理解できる。
4	経脈・経穴：手太陽小腸経②／小テスト手太陽小腸経①	手太陽小腸経の取穴法を理解できる。
5	経脈・経穴：足太陽膀胱経①正経十二経流注循環／小テスト手太陽小腸経②	足太陽膀胱経の流注と経穴名を理解できる。
6	経脈・経穴：足太陽膀胱経②背部の横並び／小テスト足太陽膀胱経①	足太陽膀胱経の経穴名と背部の取穴を理解できる。
7	経脈・経穴：背部の奇穴 背部の実際 取穴実技／小テスト背部横並び	触診をしながら人体上に取穴することができる。奇穴の性質と取穴を理解できる。
8	確認テスト 前半の復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	確認テスト返却 解答・解説 背部穴の問題演習	国家試験問題を解き経絡経穴概論の出題傾向を理解できる。
10	経脈・経穴：足太陽膀胱経③	足太陽膀胱経の取穴を理解できる。
11	経脈・経穴：足少陰腎経①／小テスト足太陽膀胱経③	足少陰腎経の流注と経穴名を理解できる。
12	経脈・経穴：足少陰腎経②／小テスト足少陰腎経①心経・小腸経復習	足少陰腎経の取穴を理解できる。
13	脾経・心経・小腸経取穴確認実技小テスト	流注を理解することができる。各経絡の取穴を人体上にすることができる。
14	経脈・経穴：任脈／小テスト背部横並び	任脈の流注、経穴名、取穴法を理解できる。
15	期末テスト 復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

16～30回授業：小テスト合計15点＋第1回テスト25点＋第2回テスト60点＝100点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年 1	開講区分 前期	担当教員 藤原 真由美		
授業科目名 東洋医学概論 I	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や人体・病の捉え方を基本から習得できる授業を行う。初めて聞く東洋医学用語が多いため、意味などを覚えながら復習を欠かさずに受講すること。□

〔到達目標〕

鍼灸の基本となる東洋医学の知識を習得する。また、東洋医学的な人体の考え方、病の捉え方を習得し、実技の授業に結びつけることが出来るようになる。□

〔使用教材、参考文献等〕

新板 東洋医学概論(医道の日本)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章 東洋医学の特徴	鍼灸の基礎となる東洋医学の哲学的な思想がイメージできるようになる。
2	第3章 東洋医学の思想 陰陽学説	陰陽とは何か、陰と陽の関係性について理解できる
3	第3章 東洋医学の思想 人体における陰陽①	陰陽学説を人体に応用して理解ができる
4	第3章 東洋医学の思想 人体における陰陽②	陰陽学説を人体に応用して理解ができる
5	第3章 東洋医学の思想 五行学説	五行とは何か、五行の関係性について理解できる
6	第3章 東洋医学の思想 五行学説	五行色体表の意味を理解し難しい漢字が書けるようになる
7	陰陽学説、五行学説についての復習	五行色体表を完璧にできるようにする
8	中間試験	東洋医学の基本的な考え方の理解を深める
9	第2章 生理と病理 生体物質と神(精)	東洋医学的な人体の仕組みを理解する 神と精とは何か具体的に説明できる
10	第2章 生理と病理 生体物質と神(気)	気とは何か、その種類と働きについて理解する
11	第2章 生理と病理 生体物質と神(気)	気の病理について理解できる 東洋医学的な症状の名称を覚える
12	第2章 生理と病理 生体物質と神(血)	血とは何か、その働きと病理について理解できる
13	第2章 生理と病理 生体物質と神(津液)	津液とは何か、その働きと病理について理解できる
14	第2章 生理と病理 生体物質の相互関係	生体物質がどのような関係性にあるのか説明できる
15	期末試験	効果測定を行い習得できていないところを把握し理解度を深める

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。前期(中間試験40点・期末試験40点・小テスト20点分、合計100点)、後期①(中間試験30点・期末試験50点・小テスト20点分、合計100点)、後期②(中間試験40点・期末試験40点・小テスト20点分、合計100点)評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において説明された重要事項については下線を引いたり、メモをとったりすること。またそれらの内容の復習を徹底すること。東洋医学の用語や漢字は、次回授業までに覚えてくること。□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		藤原 真由美	
授業科目名	東洋医学概論 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や人体・病の捉え方を基本から習得できる授業を行う。初めて聞く東洋医学用語が多いため、意味などを覚えながら復習を欠かさずに受講すること。□

〔到達目標〕

鍼灸の基本となる東洋医学の知識を習得する。また、東洋医学的な人体の考え方、病の捉え方を習得し、実技の授業に結びつけることが出来るようになる。□

〔使用教材、参考文献等〕

新板 東洋医学概論(医道の日本)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第5章 弁証論治(八綱弁証) 第2章 生理と病理 病因病機(外感病因)①	人体に影響を及ぼす外部からの原因と病態のメカニズムについて理解ができる。
2	第2章 生理と病理 病因病機(外感病因)②	人体に影響を及ぼす外部からの原因と病態のメカニズムについて理解できる
3	第2章 生理と病理 病因病機(内傷病因とその他の病因)①	人体内部から病を発症する原因と病態のメカニズムについて理解できる
4	第2章 生理と病理 病因病機(内傷病因とその他の病因)②	人体内部から病を発症する原因と病態のメカニズムについて理解できる
5	第2章 生理と病理 蔵象学説①	五臓六腑とは何か概念と役割について理解できる
6	中間試験	効果測定を行い理解度を深める
7	第2章 生理と病理 蔵象学説②	五臓六腑とは何か概念と役割について理解できる
8	第2章 生理と病理 肝系統①	肝とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
9	第2章 生理と病理 肝系統②	肝とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
10	第2章 生理と病理 肝系統③	肝とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
11	第2章 生理と病理 心系統①	心とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
12	第2章 生理と病理 心系統②	心とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
13	第2章 生理と病理 心系統③	心とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
14	これまでの復習・問題演習	問題演習を通じて理解不足の部分を各自把握し知識の習得を行う
15	期末試験	効果測定を行い理解度を深める

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。前期(中間試験40点・期末試験40点・小テスト20点分、合計100点)、後期①(中間試験30点・期末試験50点・小テスト20点分、合計100点)、後期②(中間試験40点・期末試験40点・小テスト20点分、合計100点)評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において説明された重要事項については下線を引いたり、メモをとったりすること。またそれらの内容の復習を徹底すること。東洋医学の用語や漢字は、次回授業までに覚えてくること。□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年 1	開講区分 後期	担当教員 藤原 真由美		
授業科目名 東洋医学概論 I	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や人体・病の捉え方を基本から習得できる授業を行う。初めて聞く東洋医学用語が多いため、意味などを覚えながら復習を欠かさずに受講すること。□

〔到達目標〕

鍼灸の基本となる東洋医学の知識を習得する。また、東洋医学的な人体の考え方、病の捉え方を習得し、実技の授業に結びつけることが出来るようになる。□

〔使用教材、参考文献等〕

新板 東洋医学概論(医道の日本)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第2章 生理と病理 脾系統①	脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する
2	第2章 生理と病理 脾系統②	脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する
3	第2章 生理と病理 脾系統③	脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する
4	第2章 生理と病理 肺系統①	肺とは何か。肺の生理作用や病とその病態について理解する
5	第2章 生理と病理 肺系統②	肺とは何か。肺の生理作用や病とその病態について理解する
6	第2章 生理と病理 肺系統③	肺とは何か。肺の生理作用や病とその病態について理解する
7	第2章 生理と病理 腎系統①	腎とは何か。腎の生理作用や病とその病態について理解する
8	中間試験	効果測定を行い理解を深める
9	第2章 生理と病理 腎系統②	腎とは何か。腎の生理作用や病とその病態について理解する
10	第2章 生理と病理 腎系統③	腎とは何か。腎の生理作用や病とその病態について理解する
11	第2章 生理と病理 経絡	経絡の概念と構造について理解度を確認し各経絡に出現する病の違いを理解することができる
12	蔵象まとめ・経絡病証まとめ	蔵象学説・経絡病証を振り返り病証分類について見直し試験に向けて理解を深める
13	第2章 生理と病理 伝変と波及	蔵象学説を振り返り病証分類について見直し試験に向けて理解を深める
14	期末試験	効果測定を行い理解を深める
15	解説・五臓の相互関係	1年を通しての内容を振り返り習得できていないところを把握し理解度を深める

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。前期(中間試験40点・期末試験40点・小テスト20点分、合計100点)、後期①(中間試験30点・期末試験50点・小テスト20点分、合計100点)、後期②(中間試験40点・期末試験40点・小テスト20点分、合計100点)評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において説明された重要事項については下線を引いたり、メモをとったりすること。またそれらの内容の復習を徹底すること。東洋医学の用語や漢字は、次回授業までに覚えてくること。□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			担当教員	森 大輔			
授業科目名	学年	1	開講区分	前期	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
基礎はり学・基礎きゅう学	必修・選択	必修	授業形態	講義				

[授業の学習内容と心構え]

~~医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸の歴史をはじめ、鍼灸臨床現場に必要な基礎となる用具の種類・使用方法・消毒方法(衛生管理)などを習得する授業を行う。3年後の国家試験を見据えて、国家試験問題に慣れる。~~

[到達目標]

鍼灸臨床現場で用いる器具、術式、リスクへの対処の基礎知識を身につけ、それらを将来、臨床の場で発展・探求できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

[使用教材]・はりきゅう理論 第3版(医道の日本社)

[参考文献]・鍼灸安全対策マニュアル(医歯薬出版) ・図解鍼灸臨床手技の実際(医歯薬出版)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション	この科目に関する勉強方法を理解し、実技授業(鍼灸臨床現場)で使用する道具の名称を覚える。
2	第1章 概論	鍼灸治療の成り立ち、鍼術・灸術について理解する。
3	第2章 鍼の基礎知識	鍼の長さ・太さの名称、鍼尖の形状・鍼の材質の特徴を理解する。古代九鍼について理解する。
4	第3章 刺鍼の方式と術式	刺鍼の方式・術式を理解する。
5	第4章 特殊鍼法	特殊な施術道具や方法を理解する。
6	復習	第1章～第4章の復習を行う。
7	確認テスト	第1章～第4章の知識の習熟度を確認する試験を行う。
8	確認テスト返却・解説	テスト返却を行い、試験に対する勉強量や方法が適正であったか自己評価を行い、振り返りを行う。
9	第5章 灸の基礎知識	灸の基礎知識、灸施術で使用する灸術について理解する。
10	第6章 灸術の種類	灸の基礎知識、灸施術で使用する灸術について理解する。
11	第7章 リスク管理	鍼灸施術におけるリスク管理を理解する。鍼灸施術の禁忌を理解する。鍼灸施術における感染症対策を学び理解する□
12	第7章 リスク管理	鍼灸施術において考慮すべきリスクや副作用、それらが起きた場合の処置を理解する。□
13	復習	第9回～第12回の復習を行う。
14	期末テスト	第5章～第7章の知識の習熟度を確認する試験を行う。
15	期末テスト返却・解説	テスト返却を行い解説し、試験に対する勉強量や方法が適正であったか自己評価を行い、振り返りを行う。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)で行う。小テスト5点×4回(20点)はFormsで行う。合計120点で評価する。小テスト、確認テスト、期末テストの合計点が72点未満の者は再試験を実施する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

プリント(データ)資料を配布し授業を行う。メモを取る習慣をつけ、能動的に授業を受けるようにする。疑問に思ったことはわからないままにしないようにする。小テストを行うので復習をしっかりとるようにする。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			学年	1	開講区分	後期	担当教員	
授業科目名	触擦解剖学			必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)
								授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、全身の経穴を、ただ暗記するのではなく、運動器の構造と機能に結びつけて理解し、実際に取穴できる力を身につけます。

〔到達目標〕

経絡経穴と解剖学の知識を基に取穴実技に主体的に取り組み、自らの課題を発見して継続的にブラッシュアップできる力を養う。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 経絡経穴概論 第2版 口

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション・手の三陰経の取穴	・本授業の到達目標を理解する ・手の三陰経の取穴を実践し、流れに沿った取穴ができるようになる
2	手の三陰経の取穴	手の三陰経の取穴を実践し、筋肉や神経の走行に絡めた取穴ができるようになる
3	手の三陽経の取穴	手の三陽経の取穴を実践し、流れに沿った取穴ができるようになる
4	手の三陽経の取穴	手の三陽経の取穴を実践し、筋肉や神経の走行に絡めた取穴ができるようになる
5	足の三陰経の取穴	足の三陰経の取穴を実践し、流れに沿った取穴ができるようになる
6	足の三陰経の取穴	足の三陰経の取穴を実践し、筋肉や神経の走行に絡めた取穴ができるようになる
7	足の三陽経の取穴	足の三陽経の取穴を実践し、流れに沿った取穴ができるようになる
8	足の三陽経の取穴	足の三陽経の取穴を実践し、筋肉や神経の走行に絡めた取穴ができるようになる
9	体幹部の取穴	棘突起の隙間を正確に触りわけ、背部愈穴を取穴できるようになる
10	頭頸部の取穴	頭部の経絡の走行や首回りの経穴を立体的にイメージし、取穴できるようになる
11	経穴取穴試験	上肢、下肢の要穴を中心として取穴を素早くできるようになっているか確認する
12	実技達成度評価試験対策	鍼、灸、取穴、患者対応の4つの技術を合わせた一連の流れを理解する
13	実技達成度評価試験対策	鍼、灸、取穴、患者対応の4つの技術の中で自分の課題に気づき、課題解決に取り組み改善する
14	実技達成度評価試験後のフィードバック	ODCE I で実施した実技達成度評価試験を一人ずつフィードバックする
15	1年間の振り返り実技練習	1年間の集大成を最後に確認して2年生になる意識をつける

〔成績評価について〕

成績は各授業時間内で行う評価と経穴取穴試験の2つで評価を行う。
・授業時間内で行うルーブリック評価(50点)
・経穴取穴試験(50点)

ルーブリック評価は1から10コマ目の時間内で行う。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

本授業が始まる前に学習している経絡経穴概論 I の知識、技術が必須の科目になります。経絡経穴の基礎は一通り把握をしている前提でも取穴実技になりますので復習して臨むようにしてください。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	社会あはき学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、施術所開設の経験を活かし、現代社会における問題とそれに対するあはき師の役割を講義形式で行う。さらにワーク形式で各々の意見を出し、具体的な問題点の抽出や解決策などを考える。

〔到達目標〕

我が国における問題点とあはき師の役割を理解できる。
将来の鍼灸師像を明確に出来る。

〔使用教材、参考文献等〕

社会あはき学(医道の日本社)
学習者所有のPCあるいはタブレット端末

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	総論:日本のあはき師の推移と世界のあはき師の実 際、日本の医療の現状 ワーク(グループワークの進め方について)	日本と世界の資格要件の違いと日本が抱える問題点を理解できる。 本科目におけるワークの方法・基本的ルールを理解できる。
2	産業領域、ストレス社会とあはき師 ワーク(健康経営、就労者支援について)	就労者における問題、メンタルヘルスの問題とあはき師の役割について理解できる。
3	高齢社会とあはき師 ワーク(高齢社会の問題抽出について)	高齢社会における問題点とあはき師の役割について理解できる。
4	鍼灸業界の業態変化と、美容医療と美容鍼灸	変化していく業界の働き方の実際を知り、治療業界のイノベーションのための視点を獲得できる。
5	女性の問題、不妊症とあはき師	女性が抱える特有の問題、不妊に伴う問題とあはき師の役割について理解できる。
6	トレーナーとして活動するあはき師 海外で活動するあ はき師	スポーツ分野や海外で活動するあはき師の仕事や役割を理解できる。
7	トレーナーとして活動するあはき師 海外で活動するあ はき師②	あはき師が海外で活動するまでの手段やロードマップを理解できる。
8	総括レポート課題、他者の課題解決を促すワーク(期 末評価)	全8回の講義内容からあはき師に関わる社会問題、自身の目指す鍼灸師像を振り返り、あはき師に関わる課題解決の視野を獲得できる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔成績評価について〕

評価は、授業内ワークでの成果物とレポートの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

必要に応じ配布資料による授業を行なう。クラウドサービスを利用したワークを行なうため、必要なアカウントを取得する。□

-
-
-

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	基礎はり実技			必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
高濱 晴美 ・ 岩井 李恩											

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、取穴の基本となる体表解剖の確認しながら手足腰部の経穴刺鍼を安全に行える練習を徹底して行う。反復練習を行うことにより基本動作・安全動作を身に付けさせる。おもてなしのこころを授業の中で取り入れ、患者対応の仕方や声かけなども実践する。

〔到達目標〕

正しい手洗い・消毒方法を身に付け感染予防の重要性を知ることができる。片手挿管が素早くできるようになり、刺鍼における手の動かし方を身に付ける。
正しい刺鍼操作を身につけ、正しい動作で対人に刺鍼できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう実技(基礎編)(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	・基礎はり実技のオリエンテーション ・鍼の配布 ・鍼の保管方法 ・片手挿管	授業進行を理解し、片手挿管の練習を率先してできるようになる。
2	・片手挿管 ・やまとのりでの手洗い ・鍼まくらでの刺入方法の確認	鍼まくらを使つての刺鍼動作を理解し、練習できるようになる。
3	・片手挿管 ・鍼まくらでの刺鍼練習 ・消毒操作 ・ベッド誘導	ベッド誘導の達人になれるよう、流れを理解し患者役の学生さんとコミュニケーションをとることができる。
4	・片手挿管 ・鍼まくらでの刺鍼練習 ・消毒操作 ・ベッド誘導	前回の反省点を活かしてスムーズなベッド誘導ができる。
5	・下腿胃経の取穴 ・自己下腿への刺鍼	人体への刺鍼の流れを復習し、自らに刺鍼できるようになる。
6	・下腿胃経の取穴 ・自己下腿への刺鍼	前回よりもスムーズに刺鍼することができる。
7	・教員への刺鍼を意識したペア刺鍼	対人刺鍼の流れを理解し、実際に教員に刺鍼できるようになる。
8	・教員への刺鍼練習試験 6/30	実際に対人刺鍼ができる。
9	・ペア刺鍼(上肢への打ち方・構え方)	患者役のペアに対して、無理なく刺鍼できる体勢を作ることができる。
10	・上肢の経絡の取穴 ・ペア刺鍼	上肢の経穴を取穴し、刺鍼できるようになる。
11	・上肢の筋肉の触察 ・ペア刺鍼	前回よりもスムーズに取穴・刺鍼することができる。
12	・ペア刺鍼(下腿への打ち方・構え方)	患者役のペアに対して、無理なく刺鍼できる体勢を作ることができる。
13	・下腿の経絡の取穴 ・ペア刺鍼	下肢の経穴を取穴し、刺鍼できるようになる。
14	・下腿の筋肉の触察 ・ペア刺鍼	下肢の筋肉を意識しながらの取穴をして理解を深める。
15	・試験前練習	次の授業での試験に向けて練習を重ねる。

〔成績評価について〕

評価は実技試験で行う。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	1	開講区分	後期	担当教員 高濱 晴美 ・ 岩井 李恩				
授業科目名 基礎はり実技	必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、取穴の基本となる体表解剖の確認しながら手足腰部の経穴刺鍼を安全に行える練習を徹底して行う。反復練習を行うことにより基本動作・安全動作を身に付けさせる。おもてなしのこころを授業の中で取り入れ、患者対応の仕方や声かけなども実践する。

[到達目標]

正しい手洗い・消毒方法を身に付け感染予防の重要性を知ることができる。片手挿管が素早くできるようになり、刺鍼における手の動かし方を身に付ける。
正しい刺鍼操作を身につけ、正しい動作で対人に刺鍼できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

はりきゅう実技(基礎編)(医道の日本社)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	対人刺鍼の試験&シラバスノート提出 9/8	対人刺鍼の試験をして、シラバスノートをきちんと提出できる。
2	・ペア刺鍼(腰部への打ち方・構え方)	患者役のペアに対して、無理なく刺鍼できる体勢を作ることができる。
3	・腰部の経絡の取穴 ・ペア刺鍼	腰部の経穴を取穴し、刺鍼できるようになる。
4	・腰部の筋肉の触察 ・ペア刺鍼	腰部の筋肉を意識しながら取穴をして理解を深める。
5	・ペア刺鍼(腹部への打ち方・構え方)	患者役のペアに対して、無理なく刺鍼できる体勢を作ることができる。
6	・腹部の経絡の取穴 ・ペア刺鍼	腹部の経穴を取穴し、刺鍼できるようになる。
7	・ペア刺鍼(背部への打ち方・構え方)	患者役のペアに対して、無理なく刺鍼できる体勢を作ることができる ①
8	・ペア刺鍼(背部への打ち方・構え方)	患者役のペアに対して、無理なく刺鍼できる体勢を作ることができる ②
9	・腰部の経絡の取穴 ・ペア刺鍼	腰部の経穴を取穴し、刺鍼できるようになる。
10	・腰部の筋肉の触察 ・ペア刺鍼	腰部の筋肉を意識しながら取穴をして理解を深める。
11	・総復習	今までの刺鍼を振り返り、教員からの刺鍼指示にすぐ行動できる①
12	・総復習	今までの刺鍼を振り返り、教員からの刺鍼指示にすぐ行動できる②
13	・総復習	今までの刺鍼を振り返り、教員からの刺鍼指示にすぐ行動できる③
14	・対人刺鍼の期末試験	対人刺鍼の試験をして、1年生で学んだ刺鍼を見せられるようになっている。
15	・フィードバック	前回の試験のフィードバックを受けて、改善点を修正できる。

[成績評価について]

評価は実技試験で行う。

[特記事項・授業時間外における学習]

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	基礎きゅう実技		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕										

様々な年代の健康増進・予防に取り組み、鍼灸を通じて地域貢献してきた教員が、鍼灸師としての患者様の対応や透熱灸の人体施術(艾への点火・姿勢・消毒など)を理解・実践できるよう繰り返し教授身に付けさせる。一つ一つの授業が重要な構成になっているので集中して望んでほしい。

〔到達目標〕

散艾を米粒大、半米粒大に作成し、安全に考慮した点火動作をスムーズに行うことができる。
 竹の曲面・紙上施灸の訓練を経て、人体各部にも正確に目標点を捉え、施灸ができる。
 艾炷の作成(大きさ形柔かさなど)に必要な基本動作を身に付け、部位に応じた調整を行うことができる。
 半米粒大での透熱灸、米粒大での知熱灸(八分灸)を体表面で実施できる。
 人体施灸において安全に施灸動作を行うことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう実技(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 手の訓練□	実技室の使用方法を理解できる。灸術について理解し艾の扱い方を理解できる。手指の訓練により、手指の操作性を向上できる。
2	こよりと艾炷の作り方を理解し、ベッドの上に米粒大の艾炷を据える	艾炷を米粒大に作ることができる。
3	ベッドの上に米粒大・半米粒大の艾炷を据える	艾炷を米粒大と半米粒大に作ることができる。
4	線香を持って竹上に据える 米粒大・半米粒大(大きさ+形重視)	艾炷を米粒大と半米粒大に作り大きさを整えることができる。線香の扱い方を理解し、竹上に艾炷を据えることができる
5	線香の扱い(伴う準備、徐灰、点火動作、後処理)の習得、竹上の点火訓練	線香を安全に扱いながら艾炷を作成し、竹の目標点に点火することができる。
6	ベッドの上に米粒大・半米粒大の艾炷を据える動作訓練(形、大きさ、速さを意識)	艾炷を制限時間を意識しながら均等に作成することができる。未修得技術を再確認しベッド上で艾炷を作成することができる。
7	確認テスト(米粒大と半米粒大の艾炷の作り分け)	艾炷の作り分けのテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。
8	確認テスト(線香操作) 紙上の施灸訓練の手引き	除灰、安全な点火動作のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。紙上に施灸する際の注意点を理解できる。
9	人体施灸のリスク管理と灸熱緩和法の習得 自己施灸訓練(足底部への施灸)	人体施灸のリスクを理解、灸熱緩和法と吊り上げた際の対処法を習得し、自身に施灸することができる。
10	施灸による治療の観察と実践	有資格者の灸術を観察し、施灸のプロセスにおける身につけるべき留意点を理解できる。
11	インフォームドコンセントと対人施灸の実践	対人施灸のリスクを考慮して、ペアに安全な施灸動作を実施できる。
12	皮膚反応点の観察と人体施灸(前腕部)	皮膚を摘んだ際の反応を感じ取り、施灸による変化を体感できる。
13	皮膚反応点の観察と人体施灸(督脈上)□	皮膚を摘んだ際の反応を感じ取り、施灸による変化を体感できる。
14	確認テスト(施灸の説明評価) 灸点紙を利用した人体施灸	初診患者へ伝える施灸の説明のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。灸点を意識して安全な人体施灸ができる。
15	人体施灸(腱鞘炎治療の試行)	腱鞘炎治療を想定した灸術を修得できる。

〔成績評価について〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。
 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

評価は実技試験で行う。
 実技試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	基礎きゅう実技		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
柏崎 雅大/森 大輔										

〔授業の学習内容と心構え〕

様々な年代の健康増進・予防に取り組み、鍼灸を通じて地域貢献してきた教員が、鍼灸師としての患者様の対応や透熱灸の人体施術(艾への点火・姿勢・消毒など)を理解・実践できるよう繰り返し教授し身に付けさせる。一つ一つの授業が重要な構成になっているので集中して望んでほしい。

〔到達目標〕

散艾を米粒大、半米粒大に作成し、安全に考慮した点火動作をスムーズに行うことができる。
 竹の曲面・紙上施灸の訓練を経て、人体各部にも正確に目標点を捉え、施灸ができる。
 艾炷の作成(大きさ形柔かさなど)に必要な基本動作を身に付け、部位に応じた調整を行うことができる。
 半米粒大での透熱灸、米粒大での知熱灸(八分灸)を体表面で実施できる。
 人体施灸において安全に施灸動作を行うことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう実技(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	人体施灸(井穴反応点)	足趾(井穴)に対し、正確に施灸動作を行える。
2	二点交互灸(失眠穴)の訓練	足底部の二点交互灸の要領を理解し、実施できる。
3	人体施灸(腰部:急性腰痛の治療の試行)	腰部への施灸を安全に行える。
4	確認テスト(紙上施灸による施灸速度の評価) 人体施灸(仙骨部)	テストにより効果測定を行い、施灸速度の技術確認ができる。 施術野確保の際の配慮とタオルワークを行い、仙骨部への施灸を安全に行える。
5	知熱灸の基礎(米粒大の八分灸)	自身・対人にてタイミングよく消火ができる。人体に伝わる熱感を体験し、適切なタイミングを判断できる。
6	知熱灸の実践(腰部の施灸)	適切な安全管理のもと、腰部に知熱灸を施すことができる。
7	知熱灸の実践(肩背部の施灸)	適切な安全管理のもと、肩背部に知熱灸を施すことができる。
8	知熱灸の実践(肩部・肩上部の施灸)	適切な安全管理のもと、肩部・肩上部に知熱灸を施すことができる。
9	知熱灸の実践(足関節部の施灸)	足関節の動きを評価して適切な安全管理のもと、足関節部に知熱灸を施し、施灸後の変化をみることができる。
10	確認テスト(紙上施灸による施灸速度の評価) 糸状灸の基礎(至陰穴の施灸)	テストにより効果測定を行い、施灸速度の技術確認ができる。 糸状灸の艾炷形成を習得し、至陰穴に安全に施灸ができる。
11	糸状灸の実践(足趾部の施灸)	糸状灸の応用的技術習得を目指し、指部に安全に施灸ができる。
12	糸状灸の基礎(膝関節部の施灸)	糸状灸の艾炷形成を習得し、膝部に安全に施灸ができる。
13	期末テスト(失眠穴:二点交互灸) 糸状灸の基礎(至陰穴の施灸)	テストにより効果測定を行い、人体における施灸速度の技術確認ができる。
14	特別授業 セイリン社セラミック温灸器講座	きゅうの施術機器に触れ、もぐさ以外の温熱刺激について理解を深められる。
15	灸術・鍼術の実践(頸肩部の施術)	適切な安全管理のもと、はりきゅう複合の施術を経験し一般臨床の理解を深める

〔成績評価について〕

評価は実技試験で行う。
 実技試験は確認テストと期末テストの合計100点
 で評価する。評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。
 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	認定実技(OSCE) I		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸師として必要な基本技術、接遇態度、安全管理の基礎を実践的に学ぶ。
 経絡ヨガや実技導入、地域イベントでの活動を通して、身体の使い方、器具の取り扱い、対人対応を身につける。
 授業には、安全意識と礼節を持って主体的に取り組み、毎回の学びを振り返りながら技術と態度の向上を目指す。

〔到達目標〕

医療人としての身だしなみと規範を遵守し、厳格な衛生・安全管理の下で、OSCEおよび各実技科目の基準を満たす正確な触察・刺鍼・施灸手技と患者接遇を統合的に実践できる。□

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	経絡ヨガ①: 身体感覚と姿勢の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・施術者に必要な基本姿勢の重要性を理解できる。 ・呼吸と姿勢の関係を意識して動作できる。
2	経絡ヨガ②: 施術者に必要な身体の使い方	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のない姿勢で動作する必要性を説明できる。 ・施術者自身の身体負担を軽減する方法を実践できる。
3	実技導入①: 施術者の手洗い・消毒法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技授業に臨む際の衛生面の心構えを理解、実践することができる。
4	実技導入②: 衛生管理と器具の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・実技で用いる器具を安全かつ適切に取り扱うことができる。 ・消毒・衛生管理の基本手順を理解し実施できる。
5	実技導入③: 安全管理と施術準備の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・実技開始前の環境整備と安全確認ができる。 ・施術準備から終了までの基本的な流れを理解できる。
6	特別授業: 実際の鍼灸治療の見学、体験	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の治療を見学・経験し、自分の将来をイメージできるようになる。
7	地域イベント実習準備①: 接遇・説明練習	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の来場者に対して分かりやすく説明することができる。 ・接遇の基本(挨拶、案内、言葉遣い)を実践できる。
8	地域イベント実習準備②: 施術実践と安全確認	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント実施を想定した一連の流れを実践できる。 ・施術前後の安全確認を適切に行うことができる。
9	地域イベント実習①: 江戸川区民祭りでの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導のもと、一般の方への対応を実践できる。 ・接遇、説明、安全配慮を意識して行動できる。
10	地域イベント実習②: 江戸川区民祭りでの実践	
11	地域イベント実習振り返り: 課題提出	<ul style="list-style-type: none"> ・実践経験をもとに改善点を言語化できる。 ・今後の学習に向けた具体的な目標設定ができる。
12	実技達成度評価試験対策①: 試験説明と基本練習	<ul style="list-style-type: none"> ・実技達成度評価試験の目的、流れ、評価観点を理解できる。 ・評価項目を意識しながら基本動作を練習できる。
13	実技達成度評価試験対策②: 通し練習	
14	実技達成度評価試験①	
15	実技達成度評価試験②	<ul style="list-style-type: none"> ・学修した基本技術・態度・安全管理を実践の中で示すことができる。 ・試験課題に対し、適切な手順で落ち着いて対応できる。

〔成績評価について〕

成績評価は、学期末に実施する実技達成度評価をもとに総合的に判定する。
 評価にあたっては、授業で学んだ基本的な技術、態度、安全管理の理解と実践状況を対象とする。
 なお、評価方法および評価基準の詳細については、授業内で別途説明する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	基礎演習		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
							東 路子			

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、能動的な学習を促す学習技法を中心に授業を展開する。体験型ワークを通じて自己の取り組み方や感じ方を振り返り、学びに向かう姿勢や成長の方向性を見つめ直す。模擬試験を実施し、これまでの学習内容の理解度や課題を客観的に把握する。結果のみを重視するのではなく、自己の特性や課題を理解し、今後の学習や成長につなげる意識を持って取り組む。

〔到達目標〕

ワークおよび模擬試験の結果を基に、自身の到達度を客観的に捉え、課題を言語化して次の学習行動に結びつけることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	コミュニケーション	オリエンテーション
2	コミュニケーション	学校生活に必要な機器の設定ができる。
3	コミュニケーション	自己紹介を通じてコミュニケーションを図ることができる。
4	学則	学校生活における学則ルールを理解することができる。
5	学力試験	基礎学力試験の実施を通じて学びの特徴を知ることができる。
6	目標設定	個人の目標設定ができる。
7	手の感覚	手の感覚について ゲームを通じて研ぎ澄ますことができる。
8	目標設定	プロジェクトを通じて 自己成長すべき目標を立てる。
9	IT・DXについて	ITリテラシーについて学びリテラシーを理解できる。
10	東洋系模擬試験	東洋系模試を通じて理解を深めることができる。
11	東洋系模擬試験	東洋系模試を通じて理解を深めることができる。
12	東洋系模擬試験	東洋系模試を通じて理解を深めることができる。
13	模擬試験	模擬試験を通じて理解を深めることができる。
14	模擬試験	模擬試験を通じて理解を深めることができる。
15	模擬試験	模擬試験を通じて理解を深めることができる。

〔成績評価について〕

模擬試験2回(40%)
課題レポート(10%×2回)

〔特記事項・授業時間外における学習〕

模擬試験実施後、自己分析シートを作成し自主学習課題として取り組む。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員		宇城 孝佑	
授業科目名	コミュニケーションスキル I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場における人材育成、コミュニケーション研修を担当する講師が、医療・治療業界で求められる「対人基礎力」と「自己管理能力」を、ワークショップを中心に実践的に学びを提供する。患者様との信頼関係構築はもちろん、職場での円滑な連携、そしてプロとして成果を出し続けるための目標設定スキルを習得する。

〔到達目標〕

- ・自己把握：社会人基礎力を指標に、自身の強みと課題を客観的に説明できる。
- ・現場対応：患者や周囲のスタッフに対し、状況に応じた適切なコミュニケーションができる。
- ・目標遂行：規律を遵守し、時間管理と具体的な行動設定によって目標を達成できる。
- ・主体性：組織の一員として当事者意識を持ち、集団の課題解決に貢献できる。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション	キャリア教育カリキュラムの概要と必要性
2	キャリア教育の目的	コミュニケーションタイプワーク/社会人基礎力の自己採点
3	チームビルディング	自己分析ワーク
4	●チームで働く力 発信力、傾聴力	治療院における患者様とのコミュニケーション課題の実例 コミュニケーションワーク実践(背面コミュニケーション)
5	●チームで働く力 柔軟性、状況判断力	治療院における上司・先輩とのコミュニケーション課題の実例 コミュニケーションワーク実践(価値観の優位付け)
6	●チームで働く力 規律性、ストレスコントロール力	規律(凡事徹底)の必要性、ストレスとの向き合い方
7	●考え抜く力 課題発見力、計画力	目標達成スキル、目標設定ワーク
8	●考え抜く力 想像力	入学半年間の振り返り(社会人基礎力の自己採点・フィードバック)
9	●チームビルディング	世の中に求められる治療家とは？ コミュニケーションワーク(グループディスカッション)
10	●前に踏み出す力 主体性	当事者と被害者・評論家・傍観者の違い コミュニケーションワーク(フラフープ)
11	●前に踏み出す力 働きかけ力	マネジメントの発想法、マネジメント実践ソーク
12	●前に踏み出す力 実行力	行動設定の5つのポイント タイムマネジメントの基礎、行動設定ワーク
13	まとめ	1年間のまとめワーク
14	まとめ	入学1年間を振り返る 社会人基礎力の自己採点、フィードバック
15	評価試験	今まで学習した内容の自己評価と今後のキャリアについてレポートを作成し、振り返る。

〔成績評価について〕

課題(レポート)の作成にて評価する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

--

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	通年前期	担当教員			
授業科目名	コミュニケーションスキルⅡ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	専任教員 授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、多様な場面で必要となるコミュニケーション力と社会性を身につけることを目的とし展開する。江戸川区西葛西という地域を理解し、災害発生時を想定して他者と協力しながら行動する姿勢を養う。
また、講演や講習会を通して最先端の技術や専門の取り組みに触れ、話を聞き理解する力を育成する。国際教育では、異文化や多様な価値観を学び、相手を尊重した関わり方を考えるとともに、学生が社会の一員として適切に行動できる基本的態度を身につけられるよう指導する。

〔到達目標〕

社会や地域、国際的な場面において、相手を尊重した適切なコミュニケーションを取ることができる。

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	目標設定	オリエンテーション
2	目標設定	最初の授業を通じて自身の目標を表明できる。
3	コミュニケーション技法	防災散歩を通じて地域の地理を理解する。
4	コミュニケーション技法	防災散歩を通じて仲間の他己紹介をすることができる。
5	コミュニケーション技法	BBQを通じてクラス交流ができる。
6	コミュニケーション技法	レクリエーションを通じて、クラスの団結力を高めることができる。
7	集団行動	スポーツ大会
8	集団行動	スポーツ大会
9	集団行動	スポーツ大会
10	集団行動	スポーツ大会
11	国際教育	海外の鍼灸について学ぶことができる。
12	国際教育	海外の鍼灸について学ぶことができる。
13	国際教育	国際教育を通じて、コミュニケーションを学ぶ。
14	国際教育	国際教育を通じて、コミュニケーションを学ぶ。
15	国際教育	国際教育を通じて、コミュニケーションを学ぶ。

〔成績評価について〕

レポート全4回提出にて評価する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	1	開講区分	前期	担当教員				
授業科目名 保健体育 I	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
	鈴木 勇気								

〔授業の学習内容と心構え〕

プロスポーツ現場で10年トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を変えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中高生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔到達目標〕

中高生など育成年代の部活動やスポーツチームで現場の高いニーズに応じてフルタイムでトレーナー活動が出来るようになること。

〔使用教材、参考文献等〕

トレーニング指導者テキスト(理論編)(実践編)、ストレングス&コンディショニング I (理論編) II (エクササイズ編) ファンクショナルトレーニング、MOVEMENT、走動作のファンクショナルトレーニング

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	講義の概要とトレーナーとして必要なことや不可欠な要素	トレーナーの必要性や重要性が理解できる。
2	パートナーストレッチの必要性と方法	パートナーストレッチの必要性を理解するとともにパートナーストレッチが模倣・指導できる。
3	パートナーストレッチの確認テスト(実技)	パートナーストレッチの確認テストを実施する。
4	クーリングダウン及び静的ストレッチの必要性と方法	静的ストレッチの必要性を理解するとともに静的ストレッチが模倣・指導できる。
5	静的ストレッチの確認テスト(実技)	静的ストレッチのテストを実施する。
6	ウォーミングアップ及び動的ストレッチの必要性と方法	動的ストレッチの必要性を理解するとともに動的ストレッチが模倣・指導できる。
7	動的ストレッチの確認テスト(実技)	動的ストレッチのテストを実施する。
8	自重の筋トレ(スクワットやランジ、腕立て伏せ、アニマルフロー)の必要性と方法	自重の筋トレの必要性を理解するとともに自重の筋トレが模倣・指導できる。
9	道具(バランスボール、ストレッチポール)を用いたトレーニングの必要性と方法	ストレッチポールの必要性を理解するとともに、多くのトレーニングが模倣・指導できる。
10	ストレッチポールを用いたエクササイズの確認テスト(実技)	ストレッチポールを用いたエクササイズのテストを実施する。
11	道具(セラバンドやゴムチューブ)を用いたトレーニングの必要性と方法	セラバンドやゴムチューブの必要性を理解するとともに、多くのトレーニングが模倣・指導できる。
12	スポーツにおける栄養・休養の必要性と方法	栄養・休養の必要性を理解するとともに食事・休養の必要性などを指導できる。
13	トレーニング施設の管理・運営①(スポーツジム)	スポーツジム施設の安全及び環境の配慮、運営の際に考慮すべき事項を理解できる。
14	トレーニング施設の管理・運営②(トレーナールーム)	トレーナールームの環境配慮、運営の際に考慮すべき事項を理解できる。
15	中間テスト	筆記テスト

〔成績評価について〕

評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。合計4回行なう実技確認テストは、各回10点満点とし、筆記試験は60点満点とする。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員		鈴木 勇気	
授業科目名	保健体育 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

プロスポーツ現場で10年トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔到達目標〕

中高校生など育成年代の部活動やスポーツチームで現場の高いニーズに応じてフルタイムでトレーナー活動ができるようになること。

〔使用教材、参考文献等〕

トレーニング指導者テキスト(理論編)(実践編)、ストレングス&コンディショニング I (理論編) II (エクササイズ編)ファンクショナルトレーニング、MOVEMENT、走動作のファンクショナルトレーニング

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	講義の概要とテーピングの概要	テーピングの基礎的な内容が理解できる
2	足関節の触診の復習とテーピングの切り方	テーピングの切り方のコツをマスターできる
3	アンダーラップの使い方と巻き方①	アンダーラップの巻き方のコツをマスターできる
4	アンダーラップの使い方と巻き方②	アンダーラップの巻き方のコツをマスターできる
5	アンダーラップテスト(実技)	アンダーラップの確認テストを実施する
6	アンカーテープとステアアップ	ステアアップまでの巻き方のコツをマスターできる
7	ホースシュー、ヒールロック、フィギュアエイト	フィギュアエイトまでの巻き方のコツをマスターできる
8	足関節内反捻挫予防(片脚)の確認テスト(実技)	足関節内反捻挫予防テーピング(片脚)の確認テストを実施する
9	足関節捻挫に対する応用テーピング①(サッカーテーピング)	足関節捻挫のテープ(応用①)を巻くことができる
10	足関節捻挫に対する応用テーピング②(底背屈制限)	足関節捻挫のテープ(応用②)を巻くことができる
11	足関節内反捻挫予防(両脚)の確認テスト(実技)	足関節内反捻挫予防テーピング(両脚)の確認テストを実施する
12	足関節捻挫に対する応急処置のやり方①	RICE処置の必要性を理解するとともに圧迫が模倣・指導できる
13	足関節捻挫に対する応急処置のやり方②	RICE処置の必要性を理解するとともにアイシングが模倣・指導できる
14	アイシングの確認テスト(実技)	アイシングの確認テストを実施する
15	期末テスト	筆記テスト

〔成績評価について〕

評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。合計4回行なう実技確認テストは、各回10点満点とし、筆記試験は60点満点とする。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	解剖学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
岩井 李恩										

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。専門知識だけではなく、学生の主体的な行動を促し、自主的に学びたいと思えるような工夫を施した授業展開をする。生成AIの活用、グループワーク、立体的なイメージを培う360°ビューアなどのコンテンツを扱い、3次元的な知識を身につけられるよう授業を展開する。

〔到達目標〕

医学の基礎となる解剖学の知識を習得し、将来の治療や国家試験に活かせる知識を身につける。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学(医歯薬出版) 解剖生理(医歯薬出版社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章:人体の構成 細胞～上皮組織	生成AIを用いた勉強をできるようになる。
2	第1章:人体の構成 結合組織～人体区分	生成AIでスライドを作成できるようにしてみる。
3	第1章:人体の構成 グループワーク	生成AIで作成した資料からプレゼンができるようになる。 ・スライド提出
4	第1章:人体の構成 まとめ まとめノート作成	1章の内容を網羅的に理解できる。
5	第10章:運動器系 上半身マッピング	上半身の骨と筋肉の位置関係をイメージできる。 ・第1章のまとめノートの提出(1回目)
6	第10章:運動器系 下半身マッピング	下半身の骨と筋肉の位置関係をイメージできる。 ・運動器上半身マッピングのまとめノート提出(2回目)
7	中間テスト 第10章:運動器系 総論(全身の骨の名称)	前半の習熟度を確認する。 ・運動器下半身マッピングのまとめノート提出(3回目)
8	第10章:運動器系 脊柱	脊柱の基本構造を理解し、生理的弯曲の名称と役割を説明できる。 ・運動器のまとめノート提出(4回目)
9	第10章:運動器系 胸郭	胸郭を構成する骨を挙げ、呼吸運動との関わりをイメージできる。 ・運動器のまとめノート提出(5回目)
10	第10章:運動器系 上肢帯	鎖骨と肩甲骨の形状を理解し、体幹と腕をつなぐ仕組みを説明できる。 ・運動器のまとめノート提出(6回目)
11	第10章:運動器系 上肢の骨	上腕骨、前腕の骨(橈骨・尺骨)、手根骨の名称と位置関係を特定できる。 ・運動器のまとめノート提出(7回目)
12	第10章:運動器系 下肢帯	骨盤構成を理解し、男女差の特徴を挙げることができる。 ・運動器のまとめノート提出(8回目)
13	第10章:運動器系 下肢の骨	大腿骨、下腿の骨、足根骨の名称を覚え、各骨の役割を理解する。 ・運動器のまとめノート提出(9回目)
14	第10章:振り返り	骨の全体像について理解しているかを確認する。 ・運動器のまとめノート提出(10回目)
15	期末テスト	骨の構造について全体像を理解しているかを確認する。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験と提出物で行う。
配点として、中間試験(30点分)、期末試験(30点分)、スライド提出(10点)、ノート提出(3×10回)
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

・3年生時に見返せるようなマイノートを作成します。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		岩井 李恩	
授業科目名	解剖学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。専門知識だけでなく、学生の主体的な行動を促し、自主的に学びたいと思えるような工夫を施した授業展開をする。生成AIの活用、グループワーク、立体的なイメージを培う360°ビューアなどのコンテンツを扱い、3次元的な知識を身につけられるよう授業を展開する。

[到達目標]

医学の基礎となる解剖学の知識を習得し、将来の治療や国家試験に活かせる知識を身につける。

[使用教材、参考文献等]

解剖学(医歯薬出版) 解剖生理(医歯薬出版社)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	第10章:運動器系頭蓋骨	前頭骨・頂骨・後頭骨など、脳を包む骨のパズル状の組み合わせを理解する。
2	第10章:運動器系頭蓋骨	上顎骨・下顎骨・頬骨など、顔の形を作る骨と、感覚器(目・鼻)との関係を把握する。骨の全体像について理解しているかを確認する。 ・運動器のまとめノート提出(1回目)
3	第10章:運動器系頭蓋骨	頭蓋骨の底にある穴(孔)を通り、脳と体をつなぐ神経・血管の通り道をイメージする。骨の全体像について理解しているかを確認する。 ・運動器のまとめノート提出(2回目)
4	第10章:運動器系体幹の筋①	僧帽筋・広背筋・脊柱起立筋の走行を覚え、姿勢を維持する仕組みを理解する。 ・運動器のまとめノート提出(3回目)
5	第10章:運動器系体幹の筋②	大胸筋・腹直筋・横隔膜の働きを学び、呼吸や腹圧のコントロールを理解する。 ・運動器のまとめノート提出(4回目)
6	第10章:運動器系上肢の筋①	三角筋・上腕二頭筋・三頭筋など、大きな関節を動かすパワーの源を特定できる。 ・運動器のまとめノート提出(5回目)
7	第10章:運動器系上肢の筋②	肘から手首までの筋肉の重なりを理解し、回内・回外といった複雑な動きを把握する。 ・運動器のまとめノート提出(6回目)
8	第10章:運動器系上肢の筋③	手内筋の繊細な構造を学び、人間特有の細かな指の動きのメカニズムをイメージする。 ・運動器のまとめノート提出(7回目)
9	中間テスト	頭蓋骨や上肢の構造が理解できているかを確認する。 ・運動器のまとめノート提出(8回目)
10	第10章:運動器系下肢の筋①	大臀筋・大腿四頭筋・ハムストリングスなど、体を支え運ぶための強力な筋群を理解する。
11	第10章:運動器系下肢の筋②	前脛骨筋・下腿三頭筋などの配置を学び、地面を蹴り出す仕組みを説明できる。 ・運動器のまとめノート提出(9回目)
12	第10章:運動器系下肢の筋③	足底の筋群とアーチ構造を理解し、体重を分散して支える機能を把握する。 ・運動器のまとめノート提出(10回目)
13	第10章:運動器系頭頸部の筋	頭頸部の筋肉の構造を理解し、臨床で出会う頻度の高い肩こりや頭痛について理解する。 ・運動器のまとめノート提出(11回目)
14	期末テスト 解説	筋肉全体の走行や働きが理解できているかを確認する。 ・運動器のまとめノート提出(12回目)
15	第10章:運動器系体幹の局所解剖	骨や筋肉が構成する隙間の名称やそこを通過する血管、神経についてをイメージできるようにする。

[成績評価について]

評価は筆記試験と提出物で行う。
配点として、中間試験(30点分)、期末試験(30点分)、ノート提出(3×12回)、30コマ分のノート提出(4点)
評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

・3年生時に見返せるようなマイノートを作成します。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	解剖学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
櫻井 恵司										

〔授業の学習内容と心構え〕

鍼灸マッサージ師、NSCA-CPT/CSCSの資格を持ち、20年以上教育に携わる開業鍼灸師マッサージ師が、医療の基礎となる解剖学(内臓系、循環器系、中枢神経・伝導路)を習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。

〔到達目標〕

医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。
呼吸器、消化器、泌尿器、内分泌器、循環器、中枢神経・伝導路について、国家試験の要点を理解し、説明できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

各章毎に配布するレジュメと国家試験過去問題を使用。
解剖学【第2版】公益社団法人 東洋療法学校協会編 (河野邦雄 伊藤隆造 坂本裕和 前島徹 樋口桂著) 医歯薬出版

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第3章 呼吸器系 呼吸器の概要	呼吸器系に属する器官の名称と位置をできる説明できる。 呼吸器系に属する器官の上皮組織の種類を説明できる。
2	鼻腔・咽頭	鼻腔各部の名称、副鼻腔と開口部を説明できる。 咽頭の位置と構造を説明できる。
3	喉頭・気管・気管支	喉頭軟骨の種類と特徴を説明できる。 気管の位置と構造、気管支の左右差を説明できる。
4	肺・胸膜・縦隔の構造	肺各部の名称と構造、左右差、肺門を通過するものを説明できる。 胸膜の構造、縦隔を構成する要素と縦隔内の器官を説明できる
5	確認テスト 第2章 循環器系 循環の概要	試験により効果測定を行い、呼吸器系の習得度を確認できる。 体循環と肺循環を説明できる。
6	心臓の構造	心臓の位置、各部の名称、構造を説明できる
7	刺激伝導系、心臓の血管	刺激伝導系の種類と位置を説明できる。 冠状動脈の分岐と走行、冠状静脈洞の位置を説明」できる。
8	確認テスト 体循環の動脈	試験により効果測定を行い、心臓の構造の習得度を確認できる。 大動脈の走行と大動脈弓の直接枝を説明できる。
9	総頸動脈・鎖骨下動脈	総頸動脈と鎖骨下動脈の分岐とその走行を説明できる。
10	小テスト① 大脳動脈輪・胸大動脈・腹大動脈	大脳動脈輪を構成する動脈を説明できる。 胸大動脈と腹大動脈の分岐と大まかな支配領域を説明できる。
11	小テスト② 総腸骨動脈	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 総腸骨動脈の走行と直接枝を説明できる。
12	小テスト③ 肺循環の静脈系・体循環の静脈系	静脈の走行と動脈の走行との相違を説明できる。 上大静脈に注ぐ静脈とその走行(特に奇静脈系)を説明できる。
13	小テスト④奇静脈系・下大静脈	奇静脈系の走行を説明できる。 下大静脈に注ぐ静脈とその走行(特に門脈系)を説明できる。
14	胎児循環・リンパ系	胎児循環の概要とリンパ循環を説明できる。 リンパ系に属する器官とその構造を説明できる。
15	期末テスト 第4章 消化器系 消化器系の概要	試験により効果測定を行い、動脈・静脈・リンパの習得度を確認できる。 消化器系に属する器官と上皮組織・筋組織の種類を説明できる。

〔成績評価について〕

成績評価はすべて筆記試験で行う。
確認テストは呼吸器系の終了時、心臓の構造の終了時の2回行う(計30点)
小テストは動脈の範囲で4回行う(計20点)
期末テストは15回目の授業で行う(50点)
実施日や配点は授業の進行により変更することがあり、その場合は事前に告知する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

解剖学は理解すべき専門用語や構造が多いため、積極的に授業に参加し、毎授業後に復習を行うこと。自宅では配布するレジュメを理解するだけでなく、国家試験の過去問題の解答解説を行うこと。

わからなかったことは必ず教員に確認すること。

◎定期試験前の学習だけでは、一時的、かつ表面的な理解にとどまり、国家試験レベルの習得度に到達することが難しい為、日々の学習が必要となる。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	解剖学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
櫻井 恵司										

〔授業の学習内容と心構え〕

鍼灸マッサージ師、NSCA-CPT/CSCSの資格を持ち、20年以上教育に携わる開業鍼灸師マッサージ師が、医療の基礎となる解剖学(内臓系、循環器系、中枢神経・伝導路)を習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。

〔到達目標〕

医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。
呼吸器、消化器、泌尿器、内分泌器、循環器、中枢神経・伝導路について、国家試験の要点を理解し、説明できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

各章毎に配布するレジュメと国家試験過去問題を使用。
解剖学【第2版】公益社団法人 東洋療法学校協会編 (河野邦雄 伊藤隆造 坂本裕和 前島徹 樋口桂著) 医歯薬出版

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 口腔	口腔各部の名称を説明できる。 大唾液腺、舌の構造を説明できる。
2	口腔・(咽頭)・食道・胃	歯の構造を理解できる。食道の構造と走行を説明できる。 胃の各部の名称を説明できる。
3	胃・腹膜	胃の腺細胞と間膜を説明できる。 腹膜の構造と腹膜後器官を説明できる。
4	定期テストⅠ(小テスト) 小腸・大腸	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 小腸と大腸の構造と相違を説明できる。
5	肝臓	肝臓の各部の名称と構造を説明できる。 肝臓の血管、肝門を通過するものを説明できる。
6	胆嚢・膵臓 第5章 泌尿器系 泌尿器系の概要・腎臓	胆嚢の位置と胆路を説明できる。膵臓の構造と内分泌腺を説明できる。 泌尿器系に属する器官と位置を説明できる。
7	腎臓、尿管、膀胱	腎臓の構造、血管、腎門を通過するものを説明できる。 尿管の走行、膀胱の性差、粘膜上皮を説明できる。
8	定期テストⅡ(確認テスト) 尿道、第7章 内分泌系	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 尿道の性差、内分泌系の概要を説明できる。
9	下垂体・甲状腺・上皮小体	下垂体・甲状腺・上皮小体の位置、構造、ホルモンを説明できる。
10	副腎、性腺、第8章 神経系 神経の概要	副腎の位置、構造、ホルモンを説明できる。性腺のホルモンを説明できる。 神経系の全体像と神経細胞と神経膠細胞を説明できる。
11	定期テストⅢ(小テスト) 脊髄	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 脊髄の構造を説明できる。
12	脳幹、小脳、間脳	脳幹、小脳、間脳の位置と構造を説明できる。 関与する伝導路と脳神経核を説明できる。
13	大脳	大脳皮質と機能を理解できる。大脳髄質の構造と神経線維の走行を説明できる。
14	定期テストⅣ(期末テスト) 髄膜、脳室系	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 髄膜の種類、脳室系と脳脊髄液の循環路を説明できる。
15	伝導路	伝導路の名称と走行(通過部位)を説明できる。

〔成績評価について〕

成績評価はすべて筆記試験で行う。
確認テストは呼吸器系の終了時、心臓の構造の終了時の2回行う(計30点)
小テストは動脈の範囲で4回行う(計20点)
期末テストは15回目の授業で行う(50点)
実施日や配点は授業の進行により変更することがあり、その場合は事前に告知する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

解剖学は理解すべき専門用語や構造が多いため、積極的に授業に参加し、毎授業後に復習を行うこと。自宅では配布するレジュメを理解するだけでなく、国家試験の過去問題の解答解説を行うこと。

わからなかったことは必ず教員に確認すること。

◎定期試験前の学習だけでは、一時的、かつ表面的な理解にとどまり、国家試験レベルの習得度に到達することが難しい為、日々の学習が必要となる。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		森 大輔	
授業科目名	生理学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。医療の基礎となる生理学の知識習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり予習復習して授業に臨んでほしい。□

〔到達目標〕

医学の基礎となる生理学の知識を習得する。身体の正常な働きを説明できるようになる。□

〔使用教材、参考文献等〕

〔使用教材〕 第3版 生理学(医歯薬出版株式会社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章 生理学の基礎	科目概要および生理学を学ぶ意義を理解する。 細胞内小器官の役割を理解する。
2	第1章 生理学の基礎	細胞内小器官の役割を理解する。体液の組成と働きを理解する。
3	第1章 生理学の基礎	物質移動の種類と法則を理解する。
4	第4章 消化と吸収 小テスト実施	消化吸収の過程について理解する。
5	第4章 消化と吸収	消化管運動と調節機構について理解する。 消化液の作用について酵素を中心に理解する。
6	第4章 消化と吸収	消化液の作用について酵素を中心に理解する。吸収の機序を理解する。
7	第4章 消化と吸収 小テスト実施	吸収の機序を理解する。肝臓の働きを理解する。
8	中間テスト	第1章・第4章の知識の習熟度を確認する試験を行う。
9	第5章 代謝	テストを返却し、解説する。 基礎代謝について理解する
10	第5章 代謝	糖質・脂質の働きと代謝について理解する。
11	第5章 代謝	蛋白質および副栄養素の働きと代謝について理解する。
12	第7章 排泄 小テスト実施	腎臓の働きを理解する。
13	第7章 排泄	尿生成のしくみ、腎機能の測定について理解する。□
14	第7章 排泄 小テスト実施	腎臓による体液の調節機構を理解する。
15	期末テスト	第5章・第7章の知識の習熟度を確認する試験を行う。□

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)で行う。小テスト5点×4回(20点)はFormsで行う。合計120点で評価する。小テスト、確認テスト、期末テストの合計点が72点未満の者は再試験を実施する。評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

プリント(データ)資料を配布し授業を行う。メモを取る習慣をつけ、能動的に授業を受けるようにする。疑問に思ったことはわからないままにしないようにする。小テストを行うので復習をしっかりとるようにする。□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	生理学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
今井 紀代子										

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。医療の基礎となる生理学のうち、循環器系・呼吸器系を習得する授業を行う。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講して欲しい。座学での授業であるため、しっかり復習することはもちろん、事前に教科書を読むなどの予習もして授業に臨んで欲しい。□

〔到達目標〕

医学の基礎となる生理学の知識を習得する。身体の正常な働きを説明できるようになる。□

〔使用教材、参考文献等〕

〔使用教材〕 第3版 生理学(医歯薬出版株式会社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	2章 循環 A、血液の組織と働き～赤血球	血液の組成、赤血球の働きについて理解できる。
2	白血球～血漿	白血球・血小板・血漿の働きについて理解できる。
3	B、止血～D、血液型	血小板血栓・血液凝固・繊維素溶解の流れ、血液型について理解できる。
4	E、心臓血管系～F、心臓の構造と働き	大循環・小循環、動脈と静脈、心臓の構造、心筋、刺激伝導系、心周期について理解できる。
5	G、血液循環	血管の構造、脈拍、血管の神経支配、血圧について理解できる。
6	H、循環調節～I、リンパ系	循環調節の仕組み、循環の反射性調節、特殊な部位の循環、リンパ系について理解できる。
7	2章 総復習	2章全般について、苦手なところを確認し理解できるようにする。
8	中間テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	テスト返却・解説	テストを解説し、間違えたところを確認する。
10	3章 呼吸 A、呼吸器～B、換気とガス交換 a. 肺機能	呼吸器の構造、肺機能について理解する。
11	b.ガス交換とガスの運搬	吸気・呼気の構成、肺・組織でのガス交換について理解する。
12	C、呼吸運動とその調節	呼吸運動、呼吸の反射性調節、呼吸の異常について理解する。
13	3章 総復習	3章全般について、苦手なところを確認し理解できるようにする。
14	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
15	テスト返却・解説	テストを解説し、間違えたところを確認する。

〔成績評価について〕

評価は定期試験(中間・期末テスト)により行う。基本的には筆記試験で、中間テスト(40点)、期末テスト(60点)の合計100点で評価する。小テストを実施し、中間・期末テストに加算する。期末テストには中間テストの内容も含まれる。評価は学則規定に準ずる。
100点満点中で60点未満の者は再試験を1度実施する。(再試験は中間・期末の全ての範囲で実施する)再試験は100点満点で60点以上の場合でも評価は60点扱いとする。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

プリント(またはデータ)を中心に授業を行うので、プリントの重要項目を中心に全体的な流れをつかむことが大切である。メモを取るような習慣をつけ、自学習に役立てて欲しい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	生理学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
森 大輔										

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。医療の基礎となる生理学の知識習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり予習復習して授業に臨んでほしい。□

〔到達目標〕

医学の基礎となる生理学の知識を習得する。身体の正常な働きを説明できるようになる。□

〔使用教材、参考文献等〕

〔使用教材〕 第3版 生理学(医歯薬出版株式会社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第10章 神経 A.ニューロンの構造と働き a.ニューロン～d.変性と再生	神経の分類、ニューロンの働きについて理解する。
2	第10章 B.神経線維の興奮伝導 a.静止電位～c.興奮の伝導	興奮伝導の仕組み、神経線維の分類について理解する。
3	第10章 C.シナプス伝達 a.興奮の伝達～e.受容体	伝達、受容体について理解する。
4	第10章 D.中枢神経系の分類と機能 E.反射	中枢神経系の分類と機能、反射について理解する。
5	第10章 F.脊髄	脊髄の基礎知識、伝導路について理解する。
6	第10章 G.脳幹～視床下部	中枢神経系の分類と機能について理解する。
7	中間テスト	第1回～第7回の知識の習熟度を確認する試験を行う。
8	中間テスト返却・解説 中枢神経系の復習 第10章 M.末梢神経系	テストを返却し、解説する。 中枢神経系の復習 末梢神経系の分類と機能について理解する。
9	第10章 K.大脳～L.脳脊髄液	中枢神経系の分類と機能について理解する。
10	第10章 N.自律神経系～b.交感神経系	自律神経系の機能と支配領域について理解する。
11	第10章 c.副交感神経系～g.消化管における壁内神経叢	自律神経系の機能と支配領域について理解する。
12	第10章 h.自律神経系の神経伝達物質と受容体～j.自律神経の関与する反射 小テスト	自律神経系の機能と支配領域について理解する。
13	第10章 神経 復習	第10章 神経 総復習□
14	期末テスト	第8回～第12回の知識の習熟度を確認する試験を行う。
15	期末試験の返却・解説	テストを返却し、解説する。□

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)で行う。小テスト5点×4回(20点)はFormsで行う。合計120点で評価する。小テスト、確認テスト、期末テストの合計点が72点未満の者は再試験を実施する。評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

プリント(データ)資料を配布し授業を行う。メモを取る習慣をつけ、能動的に授業を受けるようにする。疑問に思ったことはわからないままにしないようにする。小テストを行うので復習をしっかりするようにする。□

□
□
□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 1	開講区分 後期	担当教員 酒井 大輝		
授業科目名 解剖生理学 I	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 15(1)	授業回数 8	

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。
 正常な身体システムについて各器官ごとに構造と機能を連動させて理解を深めるための講義を行う。

[到達目標]

神経系(中枢神経と末梢神経)と筋・運動に関して作用を担う器官の部位および構造的特徴を理解しそれぞれの機能の連動について理解を深め説明できるようにする。

[使用教材、参考文献等]

解剖学【第2版】公益社団法人 東洋療法学校協会編・第3版 生理学(医歯薬出版株式会社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	解剖学 末梢神経	脊髄神経の特徴を理解できる。
2	解剖学 末梢神経	自律神経と脳神経の特徴を理解できる。
3	生理学 筋	筋の種類と特徴を理解できる。
4	生理学 筋	筋の種類と特徴を理解できる。
5	生理学 運動	運動の基礎と反射について理解できる。
6	生理学 運動	反射と運動調節について理解できる。
7	生理学 運動	運動調節とその他について理解できる。
8	期末試験	習熟度を測るために試験を行い、復習の機会とすることにより、授業範囲の理解をすることができる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

[成績評価について]

解剖学の範囲レポート課題20点分とFormsによる確認試験20点。
 生理学の範囲60点分の確認試験にて評価。

[特記事項・授業時間外における学習]

レポート課題を細かく実施すること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 1	開講区分 前期	担当教員 深山 俊			
授業科目名 衛生学・公衆衛生学	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15		

[授業の学習内容と心構え]

鍼灸師として臨床現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、保健医療福祉の基本的事項および保健衛生の知識を習得する授業を行う。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。

[到達目標]

国民が知らなければならない保健医療福祉の基本的事項を学び、医療従事者として患者に必要な保健衛生の知識や療養・リハビリテーション・生活の仕方・制度などについて新しい情報を伝えられ、指導できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

衛生学・公衆衛生学【医歯薬出版】

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章 衛生学・公衆衛生学の意義	衛生学・公衆衛生学の成立、源流や歴史を理解できる。
2	第10章1、消毒法一般 2、消毒の種類 1)物理的方法 (第1章 小テスト)	消毒の定義、種類を理解する。 物理的消毒方法を理解する。
3	第11章 2、消毒の種類 2)化学的方法	化学的消毒方法を理解する。
4	第11章 3、消毒の実際	医療における消毒の意義、対象と方法を理解する。
5	第10章 感染症とその対策 (第11章 小テスト) 1、感染症の意義と種類	感染症の意義と種類を理解する。
6	第10章 2、発生要因	感染症の発生要因を理解する。
7	第10章 3、感染症予防の原則 4.免疫 (第10章 小テスト)	感染症の予防の原則を理解する。
8	<前半 確認テスト>	<確認テスト>
9	第2章 健康 1、健康の概念	健康の概要を理解する。
10	第2章 2、健康管理	健康管理の構成や健康増進を理解する。
11	第2章 3、衛生行政	健康に関する保健所や市町村の役割を理解する。
12	第3章 ライフスタイルと健康 (第2章 小テスト) 1、食品と栄養	食品の意義や食品と疾患の関係性を理解する。
13	第3章 1)~5)食中毒	食中毒について理解する。
14	第3章 6)BSE 2、運動と健康 (第3章 小テスト)	運動と健康の保持・増進を理解する。
15	期末テスト 解答・解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。筆記試験は小テスト4×10=40点・確認テスト30×2=60点・期末テスト50×2=100点の200点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。□

[特記事項・授業時間外における学習]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。章ごとの復習はもちろんだが、時事問題にも注視すること(ニュース、ネットニュース、新聞など)

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			担当教員	深山 俊			
授業科目名	学年	1	開講区分	後期	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
衛生学・公衆衛生学	必修・選択	必修	授業形態	講義				

〔授業の学習内容と心構え〕

鍼灸師として臨床現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、保健医療福祉の基本的事項および保健衛生の知識を習得する授業を行う。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

国民が知らなければならない保健医療福祉の基本的事項を学び、医療従事者として患者に必要な保健衛生の知識や療養・リハビリテーション・生活の仕方・制度などについて新しい情報を伝えられ、指導できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

衛生学・公衆衛生学【医歯薬出版】

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第4章環境と健康 1. 環境とは 2. 物理的環境要因	環境要因について理解する。
2	第4章 2. 化学的環境要因 生物的環境要因	環境要因(化学・生物)について理解する。
3	第4章 3. 環境問題	環境問題(公害・地球規模)について理解する。
4	第5章 産業保健 (第4章 小テスト)	産業保健について理解する。
5	第6章 精神保健 精神疾患	精神保健について理解する。
6	第6章 精神保健 精神障害者に対する医療・保護	精神障害者に対する医療・保護を理解する。
7	第7章 母子保健 (第6章・7章 小テスト)	母子保健について理解する。
8	確認テスト	前半部の確認テスト
9	第8章 学校保健	学校保健について理解する。
10	第9章 成人・高齢者保健(第8章・小テスト)	生活習慣病について理解する。
11	第9章 高齢者の保健福祉対策	高齢者の保健福祉対策について理解する。
12	第12章 疫学 (第9章 小テスト)	疫学について理解する。
13	第13章 保健統計	保健統計指標について理解する。
14	第13章 保健統計 (第12章・13章 小テスト)	保健統計指標について理解する。
15	期末テスト 解答・解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は小テスト4×10=40点・確認テスト30×2=60点・期末テスト50×2=100点の200点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。章ごとの復習はもちろんだが、時事問題にも注視すること(ニュース、ネットニュース、新聞など)

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	医療概論		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、医療従事者としての責任や医療倫理感を持った教員が、西洋、中国、日本の医学のはじまりから現代医学に至るまでを講義する。医療人としてどう現場に立つかを考えながら受講して欲しい。

〔到達目標〕

どのようにして人類は体や病と向き合ってきたのかを理解し、医療人として患者さんにどう対応していくかを具体的に持つことが出来るようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

医療概論(医歯薬出版)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	医学史（西洋/古代・中世・ルネサンス）	西洋の医学の始まりや流れを学び理解する。
2	医学史（西洋/ルネサンス以降）	西洋の医学を学び理解する。
3	医学史（中国）①	中国の医学の始まりや流れを学び理解する。
4	医学史（中国）②	中国の医学を学び理解する。
5	医学史（日本/古代～中世）	日本の医学の始まりや流れを学び理解する。
6	医学史（日本/中世～近代）	日本の医学を学び理解する。
7	現代医学について	現代の医学について学び理解することが出来る。
8	現代医学について②	現代の医学について学び理解することが出来る。
9	確認テスト	確認テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
10	振り返り、復習	テスト結果を振り返り、再確認をする。
11	現代医療の課題	現代医療の課題を明確にし、課題に対しての自分の意見や考えが持てるようになる。
12	現代の医療制度①	日本の医療制度を学び理解する。
13	現代の医療制度②	日本の医療制度を学び理解する。
14	医療従事者の倫理①	医療従事者とは何かを理解し、医療従事者としてあるべき姿を理解し理解度を高める。
15	期末テスト解説	確認テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は2回の確認テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

医学史ではカタカナ・漢字での人物名が多く出るので復習をしましょう。 後
半の医療制度や倫理は自分の考えなども踏まえて覚えていくようにしましょう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			担当教員	笠井 友和			
授業科目名	学年	1	開講区分	前期	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
	必修・選択	必修	授業形態	講義				

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な経絡経穴の授業を行う。人体における経穴の位置や考え方を学び施術に活用できるよう積極的に受講してほしい。解剖学的知識や東洋医学的用語など新しい分野なので反復暗唱して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

各経絡に対し経穴名を順番に取穴できる。経絡経穴の特性を理解し説明できる。
解剖学的用語・東洋医学的用語を使い取穴方法を示すことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 経絡経穴概論(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	経絡・経穴の基礎／経絡・経穴の誕生～経絡の概要、要穴	正経十二経、奇経八脈について理解できる。
2	経穴の取り方に必要な用語、骨度法、同身寸法／小テスト経絡経穴の基礎	経穴の取穴に必要な寸度の決定方法や用語を理解する。
3	経脈・経穴：手の太陰肺経	手の太陰肺経の流注について理解する。経穴名を順番に書くことができる。
4	経脈・経穴：手の陽明大腸経①／小テスト手の太陰肺経	経穴の取穴場所を理解できる。手の陽明大腸経の流注と経穴名の順番を理解し書くことができる。
5	経脈・経穴：手の陽明大腸経②／小テスト手の陽明大腸経①	手の陽明大腸経の経穴の取穴場所を理解できる。
6	経脈・経穴：足の陽明胃経①／小テスト手の陽明大腸経②	足の陽明大腸経の流注について理解する。経穴名を順番に書くことができる。
7	経脈・経穴：足の陽明胃経②／小テスト足の陽明胃経①	経穴の取穴場所を理解できる。
8	確認テスト 前半の復習	各経脈の流注と経穴名・取穴場所を理解できる。
9	確認テストの解答解説、国家試験問題の紹介と経穴の覚え方アドバイス	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める
10	経脈・経穴：足の陽明胃経③	経穴の取穴場所を理解できる。
11	経脈・経穴：足太陰脾経①／小テスト足の陽明胃経③	足太陰脾経の流注について理解する。経穴名を順番に書くことができる。
12	経脈・経穴：足太陰脾経②／小テスト肺経・大腸経復習	経穴の取穴場所を理解できる。
13	肺経・大腸経・胃経の取穴確認実技テスト	人体上の取穴場所を理解し、実践することができる。
14	経脈・経穴：手少陰心経／小テスト足太陰脾経	手少陰心経の流注について理解する。経穴名を順番に書くことができる。経穴の取穴場所を理解できる。
15	期末テスト 前期全体の復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める

〔成績評価について〕

1～15回授業：小テスト合計15点＋第1回テスト25点＋第2回テスト60点＝100点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 1	開講区分 後期	担当教員 笠井 友和			
授業科目名 経絡経穴概論Ⅰ	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15		

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な経絡経穴の授業を行う。人体における経穴の位置や考え方を学び施術に活用できるよう積極的に受講してほしい。解剖学的知識や東洋医学的用語など新しい分野なので反復暗唱して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

各経絡に対し経穴名を順番に取穴できる。経絡経穴の特性を理解し説明できる。
解剖学的用語・東洋医学的用語を使い取穴方法を示すことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 経絡経穴概論(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	前期期末試験解答解説、難経六十九難について	難経六十九難を使った経穴の選別方法を学び、理解できる。
2	経脈・経穴：督脈	督脈の流注と経穴名、取穴方法を学び理解できる。
3	経脈・経穴：手太陽小腸経①／小テスト督脈	手太陽小腸経の流注と経穴名を理解できる。
4	経脈・経穴：手太陽小腸経②／小テスト手太陽小腸経①	手太陽小腸経の取穴法を理解できる。
5	経脈・経穴：足太陽膀胱経①正経十二経流注循環／小テスト手太陽小腸経②	足太陽膀胱経の流注と経穴名を理解できる。
6	経脈・経穴：足太陽膀胱経②背部の横並び／小テスト足太陽膀胱経①	足太陽膀胱経の経穴名と背部の取穴を理解できる。
7	経脈・経穴：背部の奇穴 背部の実際 取穴実技／小テスト背部横並び	触診をしながら人体上に取穴することができる。 奇穴の性質と取穴を理解できる。
8	確認テスト 前半の復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	確認テスト返却 解答・解説 背部穴の問題演習	国家試験問題を解き経絡経穴概論の出題傾向を理解できる。
10	経脈・経穴：足太陽膀胱経③	足太陽膀胱経の取穴を理解できる。
11	経脈・経穴：足少陰腎経①／小テスト足太陽膀胱経③	足少陰腎経の流注と経穴名を理解できる。
12	経脈・経穴：足少陰腎経②／小テスト足少陰腎経①心経・小腸経復習	足少陰腎経の取穴を理解できる。
13	脾経・心経・小腸経取穴確認実技小テスト	流注を理解することができる。各経絡の取穴を人体上に行うことができる。
14	経脈・経穴：任脈／小テスト背部横並び	任脈の流注、経穴名、取穴法を理解できる。
15	期末テスト 復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

16～30回授業：小テスト合計15点＋第1回テスト25点＋第2回テスト60点＝100点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 1	開講区分	前期	担当教員 藤原 真由美			
授業科目名 東洋医学概論 I	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や人体・病の捉え方を基本から習得できる授業を行う。初めて聞く東洋医学用語が多いため、意味などを覚えながら復習を欠かさずに受講すること。□

〔到達目標〕

鍼灸の基本となる東洋医学の知識を習得する。また、東洋医学的な人体の考え方、病の捉え方を習得し、実技の授業に結びつけることが出来るようになる。□

〔使用教材、参考文献等〕

新板 東洋医学概論(医道の日本)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章 東洋医学の特徴	鍼灸の基礎となる東洋医学の哲学的な思想がイメージできるようになる。
2	第3章 東洋医学の思想 陰陽学説	陰陽とは何か、陰と陽の関係性について理解できる
3	第3章 東洋医学の思想 人体における陰陽①	陰陽学説を人体に応用して理解ができる
4	第3章 東洋医学の思想 人体における陰陽②	陰陽学説を人体に応用して理解ができる
5	第3章 東洋医学の思想 五行学説	五行とは何か、五行の関係性について理解できる
6	第3章 東洋医学の思想 五行学説	五行色体表の意味を理解し難しい漢字が書けるようになる
7	陰陽学説、五行学説についての復習	五行色体表を完璧にできるようにする
8	中間試験	東洋医学の基本的な考え方の理解を深める
9	第2章 生理と病理 生体物質と神(精)	東洋医学的な人体の仕組みを理解する 神と精とは何か具体的に説明できる
10	第2章 生理と病理 生体物質と神(気)	気とは何か、その種類と働きについて理解する
11	第2章 生理と病理 生体物質と神(気)	気の病理について理解できる 東洋医学的な症状の名称を覚える
12	第2章 生理と病理 生体物質と神(血)	血とは何か、その働きと病理について理解できる
13	第2章 生理と病理 生体物質と神(津液)	津液とは何か、その働きと病理について理解できる
14	第2章 生理と病理 生体物質の相互関係	生体物質がどのような関係性にあるのか説明できる
15	期末試験	効果測定を行い習得できていないところを把握し理解度を深める

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。前期(中間試験40点・期末試験40点・小テスト20点分、合計100点)、後期①(中間試験30点・期末試験50点・小テスト20点分、合計100点)、後期②(中間試験40点・期末試験40点・小テスト20点分、合計100点)評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において説明された重要事項については下線を引いたり、メモをとったりすること。またそれらの内容の復習を徹底すること。東洋医学の用語や漢字は、次回授業までに覚えてくること。□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 1	開講区分	前期	担当教員 藤原 真由美		
授業科目名 東洋医学概論Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や人体・病の捉え方を基本から習得できる授業を行う。初めて聞く東洋医学用語が多いため、意味などを覚えながら復習を欠かさずに受講すること。□

〔到達目標〕

鍼灸の基本となる東洋医学の知識を習得する。また、東洋医学的な人体の考え方、病の捉え方を習得し、実技の授業に結びつけることが出来るようになる。□

〔使用教材、参考文献等〕

新板 東洋医学概論(医道の日本)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第5章 弁証論治(八綱弁証) 第2章 生理と病理 病因病機(外感病因)①	人体に影響を及ぼす外部からの原因と病態のメカニズムについて理解ができる。
2	第2章 生理と病理 病因病機(外感病因)②	人体に影響を及ぼす外部からの原因と病態のメカニズムについて理解できる
3	第2章 生理と病理 病因病機(内傷病因とその他の病因)①	人体内部から病を発症する原因と病態のメカニズムについて理解できる
4	第2章 生理と病理 病因病機(内傷病因とその他の病因)②	人体内部から病を発症する原因と病態のメカニズムについて理解できる
5	第2章 生理と病理 蔵象学説①	五臓六腑とは何か概念と役割について理解できる
6	中間試験	効果測定を行い理解度を深める
7	第2章 生理と病理 蔵象学説②	五臓六腑とは何か概念と役割について理解できる
8	第2章 生理と病理 肝系統①	肝とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
9	第2章 生理と病理 肝系統②	肝とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
10	第2章 生理と病理 肝系統③	肝とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
11	第2章 生理と病理 心系統①	心とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
12	第2章 生理と病理 心系統②	心とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
13	第2章 生理と病理 心系統③	心とは何か生理作用や病とその病態について理解できる
14	これまでの復習・問題演習	問題演習を通じて理解不足の部分を各自把握し知識の習得を行う
15	期末試験	効果測定を行い理解度を深める

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。前期(中間試験40点・期末試験40点・小テスト20点分、合計100点)、後期①(中間試験30点・期末試験50点・小テスト20点分、合計100点)、後期②(中間試験40点・期末試験40点・小テスト20点分、合計100点)評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において説明された重要事項については下線を引いたり、メモをとったりすること。またそれらの内容の復習を徹底すること。東洋医学の用語や漢字は、次回授業までに覚えてくること。□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 1	開講区分 後期	担当教員 藤原 真由美		
授業科目名 東洋医学概論Ⅰ	必修・選択 必修	授業形態	講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や人体・病の捉え方を基本から習得できる授業を行う。初めて聞く東洋医学用語が多いため、意味などを覚えながら復習を欠かさずに受講すること。□

〔到達目標〕

鍼灸の基本となる東洋医学の知識を習得する。また、東洋医学的な人体の考え方、病の捉え方を習得し、実技の授業に結びつけることが出来るようになる。□

〔使用教材、参考文献等〕

新板 東洋医学概論(医道の日本)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第2章 生理と病理 脾系統①	脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する
2	第2章 生理と病理 脾系統②	脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する
3	第2章 生理と病理 脾系統③	脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する
4	第2章 生理と病理 肺系統①	肺とは何か。肺の生理作用や病とその病態について理解する
5	第2章 生理と病理 肺系統②	肺とは何か。肺の生理作用や病とその病態について理解する
6	第2章 生理と病理 肺系統③	肺とは何か。肺の生理作用や病とその病態について理解する
7	第2章 生理と病理 腎系統①	腎とは何か。腎の生理作用や病とその病態について理解する
8	中間試験	効果測定を行い理解を深める
9	第2章 生理と病理 腎系統②	腎とは何か。腎の生理作用や病とその病態について理解する
10	第2章 生理と病理 腎系統③	腎とは何か。腎の生理作用や病とその病態について理解する
11	第2章 生理と病理 経絡	経絡の概念と構造について理解度を確認し各経絡に出現する病の違いを理解することができる
12	蔵象まとめ・経絡病証まとめ	蔵象学説・経絡病証を振り返り病証分類について見直し試験に向けて理解を深める
13	第2章 生理と病理 伝変と波及	蔵象学説を振り返り病証分類について見直し試験に向けて理解を深める
14	期末試験	効果測定を行い理解を深める
15	解説・五臓の相互関係	1年を通しての内容を振り返り習得できていないところを把握し理解度を深める

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。前期(中間試験40点・期末試験40点・小テスト20点分、合計100点)、後期①(中間試験30点・期末試験50点・小テスト20点分、合計100点)、後期②(中間試験40点・期末試験40点・小テスト20点分、合計100点)評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において説明された重要事項については下線を引いたり、メモをとったりすること。またそれらの内容の復習を徹底すること。東洋医学の用語や漢字は、次回授業までに覚えてくること。□

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			開講区分	前期	担当教員	
授業科目名	学年	1	必修・選択	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)
			必修			授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸の歴史をはじめ、鍼灸臨床現場に必要な基礎となる用具の種類・使用方法・消毒方法(衛生管理)などを習得する授業を行う。3年後の国家試験を見据えて、国家試験問題に慣れる。

[到達目標]

鍼灸臨床現場で用いる器具、術式、リスクへの対処の基礎知識を身につけ、それらを将来、臨床の場で発展・探求できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

[使用教材]・はりきゅう理論 第3版(医道の日本社)

[参考文献]・鍼灸安全対策マニュアル(医歯薬出版) ・図解鍼灸臨床手技の実際(医歯薬出版)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション	この科目に関する勉強方法を理解し、実技授業(鍼灸臨床現場)で使用する道具の名称を覚える。
2	第1章 概論	鍼灸治療の成り立ち、鍼術・灸術について理解する。
3	第2章 鍼の基礎知識	鍼の長さ・太さの名称、鍼先の形状・鍼の材質の特徴を理解する。古代九鍼について理解する。
4	第3章 刺鍼の方式と術式	刺鍼の方式・術式を理解する。
5	第4章 特殊鍼法	特殊な施術道具や方法を理解する。
6	復習	第1章～第4章の復習を行う。
7	確認テスト	第1章～第4章の知識の習熟度を確認する試験を行う。
8	確認テスト返却・解説	テスト返却を行い、試験に対する勉強量や方法が適正であったか自己評価を行い、振り返りを行う。
9	第5章 灸の基礎知識	灸の基礎知識、灸施術で使用する灸術について理解する。
10	第6章 灸術の種類	灸の基礎知識、灸施術で使用する灸術について理解する。
11	第7章 リスク管理	鍼灸施術におけるリスク管理を理解する。鍼灸施術の禁忌を理解する。鍼灸施術における感染症対策を学び理解する□
12	第7章 リスク管理	鍼灸施術において考慮すべきリスクや副作用、それらが起きた場合の処置を理解する。□
13	復習	第9回～第12回の復習を行う。
14	期末テスト	第5章～第7章の知識の習熟度を確認する試験を行う。
15	期末テスト返却・解説	テスト返却を行い解説し、試験に対する勉強量や方法が適正であったか自己評価を行い、振り返りを行う。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)で行う。小テスト5点×4回(20点)はFormsで行う。合計120点で評価する。小テスト、確認テスト、期末テストの合計点が72点未満の者は再試験を実施する。評価は学則規定に準ずる。□□

□
□
□

[特記事項・授業時間外における学習]

プリント(データ)資料を配布し授業を行う。メモを取る習慣をつけ、能動的に授業を受けるようにする。疑問に思ったことはわからないままにしないようにする。小テストを行うので復習をしっかりとるようにする。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			学年	1	開講区分	後期	担当教員	
授業科目名	触擦解剖学			必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)
								授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、全身の経穴を、ただ暗記するのではなく、運動器の構造と機能に結びつけて理解し、実際に取穴できる力を身につけます。

〔到達目標〕

経絡経穴と解剖学の知識を基に取穴実技に主体的に取り組み、自らの課題を発見して継続的にブラッシュアップできる力を養う。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 経絡経穴概論 第2版 〇

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション・手の三陰経の取穴	・本授業の到達目標を理解する ・手の三陰経の取穴を実践し、流れに沿った取穴ができるようになる
2	手の三陰経の取穴	手の三陰経の取穴を実践し、筋肉や神経の走行に絡めた取穴ができるようになる
3	手の三陽経の取穴	手の三陽経の取穴を実践し、流れに沿った取穴ができるようになる
4	手の三陽経の取穴	手の三陽経の取穴を実践し、筋肉や神経の走行に絡めた取穴ができるようになる
5	足の三陰経の取穴	足の三陰経の取穴を実践し、流れに沿った取穴ができるようになる
6	足の三陰経の取穴	足の三陰経の取穴を実践し、筋肉や神経の走行に絡めた取穴ができるようになる
7	足の三陽経の取穴	足の三陽経の取穴を実践し、流れに沿った取穴ができるようになる
8	足の三陽経の取穴	足の三陽経の取穴を実践し、筋肉や神経の走行に絡めた取穴ができるようになる
9	体幹部の取穴	棘突起の隙間を正確に触りわけ、背部愈穴を取穴できるようになる
10	頭頸部の取穴	頭部の経絡の走行や首回りの経穴を立体的にイメージし、取穴できるようになる
11	経穴取穴試験	上肢、下肢の要穴を中心として取穴を素早くできるようになっているか確認する
12	実技達成度評価試験対策	鍼、灸、取穴、患者対応の4つの技術を合わせた一連の流れを理解する
13	実技達成度評価試験対策	鍼、灸、取穴、患者対応の4つの技術の中で自分の課題に気づき、課題解決に取り組み改善する
14	実技達成度評価試験後のフィードバック	ODCE I で実施した実技達成度評価試験を一人ずつフィードバックする
15	1年間の振り返り実技練習	1年間の集大成を最後に確認して2年生になる意識をつける

〔成績評価について〕

成績は各授業時間内で行う評価と経穴取穴試験の2つで評価を行う。
・授業時間内で行うルーブリック評価(50点)
・経穴取穴試験(50点)

ルーブリック評価は1から10コマ目の時間内で行う。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

本授業が始まる前に学習している経絡経穴概論 I の知識、技術が必須の科目になります。経絡経穴の基礎は一通り把握をしている前提でも取穴実技になりますので復習して臨むようにしてください。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	社会あはき学 I		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、施術所開設の経験を活かし、現代社会における問題とそれに対するあはき師の役割を講義形式で行う。さらにワーク形式で各々の意見を出し、具体的な問題点の抽出や解決策などを考える。

〔到達目標〕

我が国における問題点とあはき師の役割を理解できる。
将来の鍼灸師像を明確に出来る。

〔使用教材、参考文献等〕

社会あはき学(医道の日本社)
学習者所有のPCあるいはタブレット端末

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	総論:日本のあはき師の推移と世界のあはき師の実際、日本の医療の現状 ワーク(グループワークの進め方について)	日本と世界の資格要件の違いと日本が抱える問題点を理解できる。 本科目におけるワークの方法・基本的ルールを理解できる。
2	産業領域、ストレス社会とあはき師 ワーク(健康経営、就労者支援について)	就労者における問題、メンタルヘルスの問題とあはき師の役割について理解できる。
3	高齢社会とあはき師 ワーク(高齢社会の問題抽出について)	高齢社会における問題点とあはき師の役割について理解できる。
4	鍼灸業界の業態変化と、美容医療と美容鍼灸	変化していく業界の働き方の実際を知り、治療業界のイノベーションのための視点を獲得できる。
5	女性の問題、不妊症とあはき師	女性が抱える特有の問題、不妊に伴う問題とあはき師の役割について理解できる。
6	トレーナーとして活動するあはき師 海外で活動するあはき師	スポーツ分野や海外で活動するあはき師の仕事や役割を理解できる。
7	トレーナーとして活動するあはき師 海外で活動するあはき師②	あはき師が海外で活動するまでの手段やロードマップを理解できる。
8	総括レポート課題、他者の課題解決を促すワーク(期末評価)	全8回の講義内容からあはき師に関わる社会問題、自身の目指す鍼灸師像を振り返り、あはき師に関わる課題解決の視野を獲得できる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔成績評価について〕

評価は、授業内ワークでの成果物とレポートの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

必要に応じ配布資料による授業を行なう。クラウドサービスを利用したワークを行なうため、必要なアカウントを取得する。

-
-
-

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	基礎はり実技			必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
								高濱 晴美 ・ 岩井 李恩			

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、取穴の基本となる体表解剖の確認しながら手足腰部の経穴刺鍼を安全に行える練習を徹底して行う。反復練習を行うことにより基本動作・安全動作を身に付けさせる。おもてなしのこころを授業の中で取り入れ、患者対応の仕方や声かけなども実践する。

〔到達目標〕

正しい手洗い・消毒方法を身に付け感染予防の重要性を知ることができる。片手挿管が素早くできるようになり、刺鍼における手の動かし方を身に付ける。
正しい刺鍼操作を身につけ、正しい動作で対人に刺鍼できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう実技(基礎編)(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	・基礎はり実技のオリエンテーション ・鍼の配布 ・鍼の保管方法 ・片手挿管	授業進行を理解し、片手挿管の練習を率先してできるようになる。
2	・片手挿管 ・やまのりでの手洗い ・鍼まくらでの刺入方法の確認	鍼まくらを使つての刺鍼動作を理解し、練習できるようになる。
3	・片手挿管 ・鍼まくらでの刺鍼練習 ・消毒操作 ・ベッド誘導	ベッド誘導の達人になれるよう、流れを理解し患者役の学生さんとコミュニケーションをとることができる。
4	・片手挿管 ・鍼まくらでの刺鍼練習 ・消毒操作 ・ベッド誘導	前回の反省点を活かしてスムーズなベッド誘導ができる。
5	・下腿胃経の取穴 ・自己下腿への刺鍼	人体への刺鍼の流れを復習し、自らに刺鍼できるようになる。
6	・下腿胃経の取穴 ・自己下腿への刺鍼	前回よりもスムーズに刺鍼することができる。
7	・教員への刺鍼を意識したペア刺鍼	対人刺鍼の流れを理解し、実際に教員に刺鍼できるようになる。
8	・教員への刺鍼練習試験 6/30	実際に対人刺鍼ができる。
9	・ペア刺鍼(上肢への打ち方・構え方)	患者役のペアに対して、無理なく刺鍼できる体勢を作ることができる。
10	・上肢の経絡の取穴 ・ペア刺鍼	上肢の経穴を取穴し、刺鍼できるようになる。
11	・上肢の筋肉の触察 ・ペア刺鍼	前回よりもスムーズに取穴・刺鍼することができる。
12	・ペア刺鍼(下腿への打ち方・構え方)	患者役のペアに対して、無理なく刺鍼できる体勢を作ることができる。
13	・下腿の経絡の取穴 ・ペア刺鍼	下肢の経穴を取穴し、刺鍼できるようになる。
14	・下腿の筋肉の触察 ・ペア刺鍼	下肢の筋肉を意識しながらの取穴をして理解を深める。
15	・試験前練習	次の授業での試験に向けて練習を重ねる。

〔成績評価について〕

評価は実技試験で行う。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	基礎はり実技		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
高濱 晴美 ・ 岩井 李恩										

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、取穴の基本となる体表解剖の確認しながら手足腰部の経穴刺鍼を安全に行える練習を徹底して行う。反復練習を行うことにより基本動作・安全動作を身に付けさせる。おもてなしのこころを授業の中で取り入れ、患者対応の仕方や声かけなども実践する。

[到達目標]

正しい手洗い・消毒方法を身に付け感染予防の重要性を知ることができる。片手挿管が素早くできるようになり、刺鍼における手の動かし方を身に付ける。
正しい刺鍼操作を身に付け、正しい動作で対人に刺鍼できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

はりきゅう実技(基礎編)(医道の日本社)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	対人刺鍼の試験&シラバスノート提出 9/8	対人刺鍼の試験をして、シラバスノートをきちんと提出できる。
2	・ペア刺鍼(腰部への打ち方・構え方)	患者役のペアに対して、無理なく刺鍼できる体勢を作ることができる。
3	・腰部の経絡の取穴 ・ペア刺鍼	腰部の経穴を取穴し、刺鍼できるようになる。
4	・腰部の筋肉の触察 ・ペア刺鍼	腰部の筋肉を意識しながら取穴をして理解を深める。
5	・ペア刺鍼(腹部への打ち方・構え方)	患者役のペアに対して、無理なく刺鍼できる体勢を作ることができる。
6	・腹部の経絡の取穴 ・ペア刺鍼	腹部の経穴を取穴し、刺鍼できるようになる。
7	・ペア刺鍼(背部への打ち方・構え方)	患者役のペアに対して、無理なく刺鍼できる体勢を作ることができる①
8	・ペア刺鍼(背部への打ち方・構え方)	患者役のペアに対して、無理なく刺鍼できる体勢を作ることができる②
9	・腰部の経絡の取穴 ・ペア刺鍼	腰部の経穴を取穴し、刺鍼できるようになる。
10	・腰部の筋肉の触察 ・ペア刺鍼	腰部の筋肉を意識しながら取穴をして理解を深める。
11	・総復習	今までの刺鍼を振り返り、教員からの刺鍼指示にすぐ行動できる①
12	・総復習	今までの刺鍼を振り返り、教員からの刺鍼指示にすぐ行動できる②
13	・総復習	今までの刺鍼を振り返り、教員からの刺鍼指示にすぐ行動できる③
14	・対人刺鍼の期末試験	対人刺鍼の試験をして、1年生で学んだ刺鍼を見せられるようになっている。
15	・フィードバック	前回の試験のフィードバックを受けて、改善点を修正できる。

[成績評価について]

評価は実技試験で行う。

[特記事項・授業時間外における学習]

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名			必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
基礎きゅう実技										

〔授業の学習内容と心構え〕

様々な年代の健康増進・予防に取り組み、鍼灸を通じて地域貢献してきた教員が、鍼灸師としての患者様の対応や透熱灸の人体施術(艾への点火・姿勢・消毒など)を理解・実践できるよう繰り返し教授し身に付けさせる。一つ一つの授業が重要な構成になっているので集中して望んでほしい。

〔到達目標〕

散艾を米粒大、半米粒大に作成し、安全に考慮した点火動作をスムーズに行うことができる。
 竹の曲面・紙上施灸の訓練を経て、人体各部にも正確に目標点を捉え、施灸ができる。
 艾炷の作成(大きさ形柔かさなど)に必要な基本動作を身に付け、部位に応じた調整を行うことができる。
 半米粒大での透熱灸、米粒大での知熱灸(八分灸)を体表面で実施できる。
 人体施灸において安全に施灸動作を行うことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう実技(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 手の訓練□	実技室の使用方法を理解できる。灸術について理解し艾の扱い方を理解できる。手指の訓練により、手指の操作性を向上できる。
2	こよりと艾炷の作り方を理解し、ベッドの上に米粒大の艾炷を据える	艾炷を米粒大に作成することができる。
3	ベッドの上に米粒大・半米粒大の艾炷を据える	艾炷を米粒大と半米粒大に作成することができる。
4	線香を持って竹上に据える 米粒大・半米粒大(大きさ+形重視)	艾炷を米粒大と半米粒大に作り大きさを整えることができる。線香の扱い方を理解し、竹上に艾炷を据えることができる。
5	線香の扱い(伴う準備、徐灰、点火動作、後処理)の習得、竹上の点火訓練	線香を安全に扱いながら艾炷を作成し、竹の目標点に点火することができる。
6	ベッドの上に米粒大・半米粒大の艾炷を据える動作訓練(形、大きさ、速さを意識)	艾炷を制限時間を意識しながら均等に作成することができる。未修得技術を再確認しベッド上で艾炷を作成することができる。
7	確認テスト(米粒大と半米粒大の艾炷の作り分け)	艾炷の作り分けのテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。
8	確認テスト(線香操作) 紙上の施灸訓練の手引き	除灰、安全な点火動作のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。紙上に施灸する際の注意点を理解できる。
9	人体施灸のリスク管理と灸熱緩和法の習得 自己施灸訓練(足底部への施灸)	人体施灸のリスクを理解、灸熱緩和法と吊り上げた際の対処法を習得し、自身に施灸することができる。
10	施灸による治療の観察と実践	有資格者の灸術を観察し、施灸のプロセスにおける身につけるべき留意点を理解できる。
11	インフォームドコンセントと対人施灸の実践	対人施灸のリスクを考慮して、ペアに安全な施灸動作を実施できる。
12	皮膚反応点の観察と人体施灸(前腕部)	皮膚を摘んだ際の反応を感じ取り、施灸による変化を体感できる。
13	皮膚反応点の観察と人体施灸(督脈上)□	皮膚を摘んだ際の反応を感じ取り、施灸による変化を体感できる。
14	確認テスト(施灸の説明評価) 灸点紙を利用した人体施灸	初診患者へ伝える施灸の説明のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。灸点を意識して安全な人体施灸ができる。
15	人体施灸(腱鞘炎治療の試行)	腱鞘炎治療を想定した灸術を修得できる。

〔成績評価について〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。
 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

評価は実技試験で行う。
 実技試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	基礎きゅう実技		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

様々な年代の健康増進・予防に取り組み、鍼灸を通じて地域貢献してきた教員が、鍼灸師としての患者様の対応や透熱灸の人体施術(艾への点火・姿勢・消毒など)を理解・実践できるよう繰り返し教授身に付けさせる。一つ一つの授業が重要な構成になっているので集中して望んでほしい。

〔到達目標〕

散艾を米粒大、半米粒大に作成し、安全に考慮した点火動作をスムーズに行うことができる。
 竹の曲面・紙上施灸の訓練を経て、人体各部にも正確に目標点を捉え、施灸ができる。
 艾炷の作成(大きさ形柔かさなど)に必要な基本動作を身に付け、部位に応じた調整を行うことができる。
 半米粒大での透熱灸、米粒大での知熱灸(八分灸)を体表面で実施できる。
 人体施灸において安全に施灸動作を行うことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう実技(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	人体施灸(井穴反応点)	足趾(井穴)に対し、正確に施灸動作を行える。
2	二点交互灸(失眠穴)の訓練	足底部の二点交互灸の要領を理解し、実施できる。
3	人体施灸(腰部:急性腰痛の治療の試行)	腰部への施灸を安全に行える。
4	確認テスト(紙上施灸による施灸速度の評価) 人体施灸(仙骨部)	テストにより効果測定を行い、施灸速度の技術確認ができる。 施術野確保の際の配慮とタオルワークを行い、仙骨部への施灸を安全に行える。
5	知熱灸の基礎(米粒大の八分灸)	自身・対人にてタイミングよく消火ができる。人体に伝わる熱感を体験し、適切なタイミングを判断できる。
6	知熱灸の実践(腰部の施灸)	適切な安全管理のもと、腰部に知熱灸を施すことができる。
7	知熱灸の実践(肩背部の施灸)	適切な安全管理のもと、肩背部に知熱灸を施すことができる。
8	知熱灸の実践(肩部・肩上部の施灸)	適切な安全管理のもと、肩部・肩上部に知熱灸を施すことができる。
9	知熱灸の実践(足関節部の施灸)	足関節の動きを評価して適切な安全管理のもと、足関節部に知熱灸を施し、施灸後の変化をみることができる。
10	確認テスト(紙上施灸による施灸速度の評価) 糸状灸の基礎(至陰穴の施灸)	テストにより効果測定を行い、施灸速度の技術確認ができる。 糸状灸の艾炷形成を習得し、至陰穴に安全に施灸ができる。
11	糸状灸の実践(足趾部の施灸)	糸状灸の応用的技術習得を目指し、指部に安全に施灸ができる。
12	糸状灸の基礎(膝関節部の施灸)	糸状灸の艾炷形成を習得し、膝部に安全に施灸ができる。
13	期末テスト(失眠穴:二点交互灸) 糸状灸の基礎(至陰穴の施灸)	テストにより効果測定を行い、人体における施灸速度の技術確認ができる。
14	特別授業 セイリン社セラミック温灸器講座	きゅうの施術機器に触れ、もぐさ以外の温熱刺激について理解を深められる。
15	灸術・鍼術の実践(頸肩部の施術)	適切な安全管理のもと、はりきゅう複合の施術を経験し一般臨床の理解を深める

〔成績評価について〕

評価は実技試験で行う。
 実技試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。
 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名			必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
認定実技(OSCE) I										

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸師として必要な基本技術、接遇態度、安全管理の基礎を実践的に学ぶ。
 経絡ヨガや実技導入、地域イベントでの活動を通して、身体の使い方、器具の取り扱い、対人対応を身につける。
 授業には、安全意識と礼節を持って主体的に取り組み、毎回の学びを振り返りながら技術と態度の向上を目指す。□

〔到達目標〕

医療人としての身だしなみと規範を遵守し、厳格な衛生・安全管理の下で、OSCEおよび各実技科目の基準を満たす正確な触察・刺鍼・施灸手技と患者接遇を統合的に実践できる。□

〔使用教材、参考文献等〕

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	経絡ヨガ①: 身体感覚と姿勢の基礎	・施術者に必要な基本姿勢の重要性を理解できる。 ・呼吸と姿勢の関係を意識して動作できる。
2	経絡ヨガ②: 施術者に必要な身体の使い方	・無理のない姿勢で動作する必要性を説明できる。 ・施術者自身の身体負担を軽減する方法を実践できる。
3	実技導入①: 施術者の手洗い・消毒法	・実技授業に臨む際の衛生面の心構えを理解、実践することができる。
4	実技導入②: 衛生管理と器具の取り扱い	・実技で用いる器具を安全かつ適切に取り扱うことができる。 ・消毒・衛生管理の基本手順を理解し実施できる。
5	実技導入③: 安全管理と施術準備の基本	・実技開始前の環境整備と安全確認ができる。 ・施術準備から終了までの基本的な流れを理解できる。
6	特別授業: 実際の鍼灸治療の見学、体験	・実際の治療を見学・経験し、自分の将来をイメージできるようになる。
7	地域イベント実習準備①: 接遇・説明練習	・一般の来場者に対して分かりやすく説明することができる。 ・接遇の基本(挨拶、案内、言葉遣い)を実践できる。
8	地域イベント実習準備②: 施術実践と安全確認	・イベント実施を想定した一連の流れを実践できる。 ・施術前後の安全確認を適切に行うことができる。
9	地域イベント実習①: 江戸川区民祭りでの実践	・教員の指導のもと、一般の方への対応を実践できる。 ・接遇、説明、安全配慮を意識して行動できる。
10	地域イベント実習②: 江戸川区民祭りでの実践	
11	地域イベント実習振り返り: 課題提出	・実践経験をもとに改善点を言語化できる。 ・今後の学習に向けた具体的な目標設定ができる。
12	実技達成度評価試験対策①: 試験説明と基本練習	・実技達成度評価試験の目的、流れ、評価観点を理解できる。 ・評価項目を意識しながら基本動作を練習できる。
13	実技達成度評価試験対策②: 通し練習	・試験を想定した一連の動作を通して実践できる。 ・時間配分と手順を意識して行動できる。
14	実技達成度評価試験①	・学修した基本技術・態度・安全管理を実践の中で示すことができる。 ・試験課題に対し、適切な手順で落ち着いて対応できる。
15	実技達成度評価試験②	

〔成績評価について〕

成績評価は、学期末に実施する実技達成度評価をもとに総合的に判定する。
 評価にあたっては、授業で学んだ基本的な技術、態度、安全管理の理解と実践状況を対象とする。
 なお、評価方法および評価基準の詳細については、授業内で別途説明する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕